

平成 21 年度
環境教育指導者育成事業
中部ブロック環境教育リーダー研修基礎講座

つながる・広がる・高めあう
環境教育の幅を広げるヒントがたっぷり！
実施報告書



平成 22 年 1 月
中部地方環境事務所

目次

1. 概要.....	2
(1) 研修概要.....	2
(2) 研修のポイント.....	2
(3) 概要.....	2
2. 講座スケジュール.....	3
3. 講座内容.....	6
(1) 開講式.....	6
(2) 基調講演.....	7
(3) 各主体(地域・企業・行政)の事例発表・事業企画のための情報収集.....	10
(4) ねらいの共有化.....	20
(5) 名古屋市の「つなぐ」取り組み.....	22
(6) ゲストを交えたグループ交流会.....	24
(7) 発想の転換、プログラム体験と見せ方・伝え方.....	25
(8) 事業企画づくり.....	28
(9) グループ発表.....	29
(10) 現場をのぞき見て.....	29
(11) 閉講式.....	31
4. 企画事例集.....	32
5. アンケート.....	38
6. 資料.....	45
. 環境教育指導者育成事業 環境教育リーダー研修基礎講座 実施要項.....	45
. 中部ブロック環境教育リーダー研修基礎講座 開催要項・募集チラシ.....	48
. 参加者・講師名簿.....	52
. 検討会設置要綱.....	54
. 検討委員会開催概要.....	55

1. 概要

(1) 研修概要

持続可能な社会づくりをテーマに地域活性のリーダーとなる人材育成を目指して、学校の教職員、社会起業家を志す方、地域で活動されている方を対象に、研修を実施しました。

本研修では、実際に地域や人とのつながりを通して活躍されている方々を講師に迎え、具体事例を学びながら、地域のリーダーとして事業を立ち上げるために必要な人や場所、手段等について考え、ディスカッションを通して、事業プランを作成し、協働による事業づくりを模擬体験しました。

また、教員や市民団体など多様な参加者相互の交流を図り、パートナーシップを築くことにより、学校の子どもたちや地域の人々に対する持続可能な社会のための教育の場づくりの推進に役立てることを目的としました。

(2) 研修のポイント

様々なネットワークを活用する事で今までの活動と比べ、様々な可能性を見出す事のできる人材の育成を行ないます。

様々な活動事例から、これからの地域活動には「繋がる事・繋がりを作る人」が重要である事に気づきます。

グループワークを通して、受講者同士が繋がり、地域で応用できる ESD 事業を企画します。

講座を通して、新しいネットワークを作ります。

(3) 概要

日時：平成21年8月26日(水)～28日(金)(2泊3日)

会場：愛知県青年の家(愛知県岡崎市)

参加人数：37名

主催：環境省、文部科学省

実施主体：中部地方環境事務所

協力：愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市

請負団体：株式会社フルハシ環境総合研究所

2. 講座スケジュール

1日目：8月26日(水)

時刻	時間 (分)	内容	詳細	場所	備考
12:30	(30)	受付	・受講経費支払 ・資料受取		
13:00	(35)	開講式	・開講挨拶 ・オリエンテーション ・事務連絡	第 1 研修 室(2 階)	
13:35	(30)	基 調 講 演	【今求められている人材 「つなぐ人」】 <講師> 平田裕一氏	第 1 研修 室(2 階)	研修の目的を理解し、研修 に臨む気持ちを高めてくださ い。
14:05	(5)	休憩			
14:10	(155)	事 例 発 表と情報 収集	【各主体(地域・企業・行 政)の事例発表・事業企 画のための情報収集】 <ゲスト> 広田奈津子氏 木村真樹氏 花木峰生氏 伊藤隆氏 <コーディネーター> 新海洋子氏	第 1 研修 室(2 階)	周りの方と意見交換したり、 ゲストへ質問できる時間を設 けています。 本研修で事業企画を作成 する際に参考となる情報を収 集するとともに、自身の活動 に置き換えてみたり、活動の 幅を広げるヒントをつかんで ください。
16:45	(5)	休憩			
16:50	(40)	ワークショ ップ	【ねらいの共有化】 <ファシリテーター> 西田真哉氏	第 1 研修 室(2 階)	個人の関心のあることを発 表してもらい、グループづくり (テーマ決め)の手段にしま す。
17:30	(30)	講義	【名古屋市の「つなぐ」取 り組み】 <ゲスト> 森本章夫氏	第 1 研修 室(2 階)	本研修での事業企画づくり や自身の活動への参考として ください。
18:00		移動・			部屋割をご連絡します。
18:30	(30)	夕食		食堂(1階)	夕食 18:30-19:00
19:00	(60)	入浴			入浴時間 19:00-20:00
20:00		交流会	【ゲストを交えたグループ 交流会】	食堂(1階)	グループ交流会を通して、 事業企画におけるテーマ決め を行います。 参加者間でのネットワー ク作りの機会としてください。
22:00		就寝			

2日目:8月27日(木)

時刻	時間 (分)	内容	詳細	場所	備考
7:00 7:20		朝の集い 朝食		食堂(1階)	朝食 7:20-7:50
		清掃		宿泊室	
9:00	(80)	屋外プログラム	【発想の転換、プログラム体験と見せ方・伝え方】 <インタープリター> 酒井立子氏	屋外	プロのインタープリターによるプログラム体験を通して、見せ方・伝え方のヒントをつかんでください。
10:20	(10)	休憩			
10:30	(120)	ワークショップ	【事業企画づくり】 ・持続可能な社会をつくるための教育とは？ ・子どもたちにどんなことを伝える？ ・伝えたいことをどのように伝える？ <ファシリテーター> 西田真哉氏 新海洋子氏 <アドバイザー> 広田奈津子氏 木村真樹氏 花木峰生氏 酒井立子氏	第2、第3 研修室 (2階)	グループごとに事業企画を立案します。 立案した事業企画は、チラシも作成し、最終的に「事業企画集」としてまとめます。 現場に持ち帰って活用できる事業企画を考えてください。
12:30	(60)	昼食		食堂(1階)	昼食 12:30-13:30
13:30	(270)	ワークショップ (続き)	(グループワークの続き) ・企画書作成 ・チラシ作製 ・発表準備 <ファシリテーター> 西田真哉氏 新海洋子氏	第2、第3 研修室 (2階)	適宜休憩をとってください。
18:00	(30)	休憩			
18:30	(30)	夕食		食堂(1階)	夕食 18:30-19:00
19:30	(60)	入浴			入浴時間 19:30-20:30
19:30		自由時間	・グループワークのつづき(企画書、チラシの完成まで) ・自由時間	第2、第3 研修室 (2階)	夕食前に企画書、チラシの完成まで進まなかったグループはこの時間を利用して作業を進めてください。
22:00		就寝			

3日目:8月28日(金)

時刻	時間 (分)	内容	詳細	場所	備考
7:00 7:20		朝の集い 朝食		食堂(1階)	朝食 7:20-7:50
7:50		清掃 退所点検		宿泊室	
8:30	(140)	ワークショ ップ	【グループ発表】 <ファシリテーター> 西田真哉氏	第 1 研修 室(2階)	グループごとに、立案し た事業企画を発表してい たきます。
			【現場をのぞみ見て】 <ファシリテーター> 西田真哉氏		体験の概念化と、各自 が現場に持ち帰るための 学びの総括をします。
11:20	(10)	休憩			
11:30	(30)	閉講式	・修了証の授与 ・閉講挨拶 ・事務連絡	第 1 研修 室(2階)	

3 . 講座内容

1 日目:8 月 26 日(水)

(1) 開講式

中部地方環境事務所 所長 挨拶 市原信男氏

- ・ 環境教育リーダー研修基礎講座は、環境教育推進法が発足した平成15年から文科省との連携により毎年夏の終わり頃に開催している。
- ・ 今回は教員半数・地域リーダー半数、年齢は21～68歳と幅広い層の方々に参加頂いている。
- ・ 異なる主体が連携し力を発揮することを目標に、環境教育リーダーとしての基礎的な力をつける研修となっている。
- ・ 「つながる・広がる・高めあう」をテーマに講師の方々の講座から、皆さんが共に環境教育について考えて頂きたい。
- ・ 役所 民間など主体同士の繋がりを作り、情報交換し、地方自治体や世代をつなげる場にして頂きたい。
- ・ 愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、講師の方々の協力のもと準備段階から検討会を重ねた。ご協力下さった方々に感謝申し上げます。
- ・ 新型インフルエンザも流行っており、参加者の皆さんには3日間体調管理に気をつけて頂きたい。

愛知県教育委員会 義務教育課長 挨拶

岡田豊氏

- ・ この研修は子どもたちや地域の人々に対する環境教育、環境学習を推進する人材を対象に、知識の習得や体験学習を重視したものとなっている。
- ・ 環境教育リーダー研修は全国の地方環境事務所、北海道から九州に渡る7つのブロックごとに開催されている。
- ・ 愛知県は名古屋を中心に商業・工業発達した地域である一方、里山が多く残り自然に恵まれている地域でもある。特にここ岡崎市のある三河地区は豊かな自然を保護しながら発展した土地である。
- ・ 来年COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)がここあいち・名古屋で開催される。それに伴い、愛知グリーンウェイブ運動として植樹活動を県内全ての小・中学校で行い、生物多様性について考えるきっかけ作りを推進している。
- ・ 愛知県では子ども環境会議を開催し、子どもたちにCOP10本会議の場で提言する事を計画している。
- ・ この研修では環境教育において子どもたちを取り巻く、学校・地域・行政・企業が相互に繋がらうことも大きな目的としている。
- ・ この度の研修でお世話頂く愛知県青年の家職員の皆様方に厚くお礼申し上げます。

(2) 基調講演



基調講演

今求められている人材「つなく人」

平田裕一氏(中京女子大学健康科学部 学部長)

概要

今求められている人材は「つなく人」である。世の中の多すぎること・少なすぎることを切り口に、双方の主張を聞くことによって互いのニーズを理解し、そのためにどのようにしていくと良いのか意見交換をし、本研修のベースづくりとした。「つなく」為に必要なワークを全員で行うことで、つながる・広がる・高めあうという今回の研修の目的を理解し、研修に臨む気持ちを高めた。

講義

あなたが考える、世の中で多すぎること(物)・少なすぎること(物)

まず世の中の変化がどのように生じていくのかを考えるために、世の中で「多すぎる」と思うこと、「少なすぎる」と思うことを各自書き出した。講師から例として、「少なすぎる(少なくなった)こと」に「親からの信頼、早朝のラジオ体操」、「多すぎる(多くなった)こと」に「親からの苦情」等が挙げられた。

その後、隣の人と自己紹介を兼ねて意見交換をしながら、なぜそのような社会になったのかについて考えた。

世の中の変化は、どのようにして生じているか

社会の変遷として、近距離でも自家用車を利用し歩かなくなったことや、手仕事や共同作業が減少したこと等、簡単便利化・軽薄短小化が挙げられた。その一方で情報化が進み、一人ひとりに課せられる責任は重くなり、現代人の精神的負担は増加傾向にある。また講師の実体験として、子どもに携帯電話を持たせることで安心感は生まれたが、子どもの友人関係が分からなくなったという問題点もある。そして、産業構造の簡単便利化によって失うものも多いことが挙げられた。

このように、お互いが課題を共有し、意見交換をしながら理解し合うことで、何が求められているのか、何をすべきなのか解決策を考えるとといったプロセスが大切であると述べられた。

つなくこととは

国語辞典によると、1)ひも、綱などで物を結びとめて離れないようにする、2)離れているものを一

つに結ぶ、3)長く続けて絶やさないようにする、という意味がある。

皆さんの意図で「つなぎ合う」ことで、それぞれの思いや課題を共有し、新たな物を作り出すという作業がこの研修で望まれている。

あなたが「つなぐ」内容とは

「環境」を広義に捉えた場合、私たちが生活するエリアにおいて「環境」とつながるものには、生物分野に限らず、子ども・教育、福祉・健康、文化・芸術、スポーツ、食等、多岐に渡る。講師が関わった「つながる」ことによる好事例として、文部科学省が学校と連携して取り組んだ、愛知県知多市での体育の授業内容の改善について紹介した。コーディネーターとなり専門の指導者を適材適所に派遣することによって、10分しかなかった運動時間を最低20分確保する授業に改善できたことを紹介し、「つなぐ人」には人や物をコーディネートする能力が重要である。

あなたが「つなぐ」対象とは

「つなぐ」対象には、1)学・学連携、2)学・社連携、3)学・企連携、4)社・企連携、5)企・企連携、6)個人と学・社・企・行、等様々ある。こうした連携が本研修の中で生まれてくることを期待したい。

「つなぐ」時に考えること

「つなぐ」時に考えるべきこととして、以下の4点が挙げられた。

1) つなぐことが求められているのかどうかの判断

つなぐ必要性を双方が共有しているか否かを判断し、目的を明確にして「つながり」を作っていくことが重要である。

2) つなぐためのチャンネルの有無

誰とどのようにつながると組織同士で機能していくのか、担当者はどのような人か等を確認する必要がある。

3) つないだ際の双方の作業理解

双方の作業、時間、経費等、組織の仕組みをよく理解しておく必要がある。

4) つながった後の継続・拡大、または縮小等の判断

目標値を定めてつながりを評価していく仕組みを導入する必要がある。またつながり方は絶えず変化することを認識しておくことが重要である。

参加者が意図的につなぐ・つながる事で、互いが情報を共有し、更にそれぞれの立場で求めていることが分かると、新たなものを作り出すことができる、というつながり合うことの意義が述べられた。

また長続きの秘訣として、「つなぐ必要性を共有できているか」が挙げられた。誰の為につなぐのか、またつなぐための仕組みを理解し、作業確認をする事が必要で、つながった後の拡大・縮小といった規模等は絶えず変化するということが解説された。

「つなぐ人」に求められること(力)

つなぐために必要な力として以下の6点が挙げられた。

1) 主体の「needs」、主体的に必要とされること

周りの声を聞く力、ということが求められているのかを見抜く力、ニーズを見極める力。

2) 全体(双方)を見渡せる力

実行する際に、周りの動向や要望を把握し、組み入れられているかを判断する力。

3) 計画力(時間・経費・人材・方法……)

4) 組織に訴える力(交渉・広くPRする力)

5) フットワーク

6) 宮沢賢治的精神「11月3日(雨にも負けず)」

たとえ評価されなくても、苦にもせず、ただひたすら困っている人のもとにいて仕事をするという精神が大切。

まとめとして、「何のために・誰のために、つなぐのか」ということについて双方合致する事が必要であることが強調された。最後に、この研修が実りあるものになることを期待するという言葉で基調講演が締めくくられた。

(3) 各主体(地域・企業・行政)の事例発表・事業企画のための情報収集

コーディネーター:新海洋子氏

(環境省 中部環境パートナーシップオフィス

チーフプロデューサー)



イントロダクション

環境学習のポイント

自己紹介の後、新海氏が大切にしている環境学習のポイント5点が紹介された。

1. 社会にある全てのものが教材となる
2. 地域にこだわる(地域にあるものを子どもたちに伝えていき、世界について知りながら自分自身についても知ることが大切である。)
3. 参加者の力を引き出す(学校の学びでは「教える」手法が多い。一人ひとりの持つ力を引き出すためには、コーディネーション、ファシリテーション力が必要となる。)
4. 地球規模で捉える
5. 社会に参加する力、社会を創る人(社会化のプロセスを創る事が環境教育である。参加するだけでなく、それを社会化させる力が今後もっと必要となる。)

事例発表の目的、心得

研修の目的として、今回参加者が「具体的に活動できるようになる！」ということを一挙に挙げた。そして本研修における参加者の心得として、

- ・ 講師陣の発表をそれぞれの事業計画づくりの参考とすること
- ・ この研修全体に渡って事業計画づくりの情報収集の時間にすること
- ・ 講師陣の事業がどんな思いで、どんな活動がされているのか「つながる」視点から視ること

以上の3点が挙げられた。これらの事から社会を作り直す力として「参加、対話、協働、共創」4つのキーワードに加え、「つながるために、互いに持ち寄り」ことの必要性を、本研修で捉えるように参加者に意識付けた。活動の幅を広げるヒントを掴む為に、話を聞くという受身な状態に終始せず、出し惜しみせずに自ら積極的に話しを持ち寄ることで、新しいこと・ものが生まれるということを訴えかけた。

事例発表

広田奈津子氏（プログミーツカンパニー代表 / COP10 なごや生物多様性アドバイザー）



COP10 なごや生物多様性アドバイザーについて

まず、来年名古屋市で開催される COP10(生物多様性条約第 10 回締約国会議)についての紹介があり、続いて「なごや生物多様性アドバイザー」という立場から、地球の現状と生物多様性について解説があった。現在、恐竜が絶滅した時代の4千万倍以上のスピードで種の絶滅が進んでおり、その大きな原因が森林の減少であることを伝え、その具体的な事柄やその要因として以下のことが挙げられた。

- ・東南アジアの森林:プランテーション化(主に油を生産)する目的で利用される。その植物油は日本で利用されている。(パーム油等)
- ・アマゾン熱帯雨林:牧場・プランテーション化を目的として利用される。そこで生産された食料は日本に出荷される。

森林が1秒間にテニスコート1面分のスピードで消失する現状に、日本の経済活動が大きく関わっていることが説明された。森林の消失から引き起こされる現実として、広田氏が現地で撮影したフィリピンの禿山の写真(伐採された木材の40%が日本へ輸入される)を見せ、「みんなで無理心中しているみたいで、ひざが震えた」という自然発火の様子を紹介するとともに、現場で体感した危機感を参加者に強く訴えた。

プログミーツカンパニーについて（企業とつながる）

次に広田氏が代表を務めるプログミーツカンパニーについての紹介が行われた。

プログミーツカンパニーは個人のエコアイデアを募り、企業に提案する活動を展開する団体である。経済的な理由で森が失われる現実にアプローチするために2006年に設立され、市民が考えたエコアイデアや要望等、1つのアイデアに対し100件以上の賛同が集まり次第、企業へ送る事を行っている。提案を受け入れ変化が起きた製品・企業の情報は、インターネットを通じて応援したメンバーに発信されることにより、口コミ広告の効果が生まれるという仕組み。具体的な提案例として以下の事例が挙げられた。

(例) 文庫本のカバーは要らない。規格外の野菜も出荷して欲しい。スーパーで量り売りをして欲しい。箸を洗い箸にして欲しい。納豆の包みを間伐材を薄く削ったものにして発売して欲しい、等。

納豆の包装を間伐材に替えた茨城県の企業では、これによりコストが 10 倍近くに膨れ上がってしまったが、提案に賛同した消費者が商品を買って支え、応援することによって成り立っていることが好事例として紹介された。

プログミーツカンパニーでは、「批判しないこと」「非難しないこと」をルールとしており、まず相手を受け入れることによって関係性を作っていくことが大切であること、「批判・否定的なエネルギーはたとえ理にかなっていても人の心に届きにくい」ということが述べられ、良好な「関係性 つながり」を作るためには「批判・非難をしない」姿勢が大切ということが強調された。

コーディネーター(新海氏)と広田氏のセッション

コーディネーター:

- ・教育現場(学校)とつながることを考えた時にどんなことができるか?
- ・子どもに伝えたいことは?

広田氏:

(フリップに「キャンパスミーツカンパニー」と掲げて。)

キャンパス発の企業向けの提案、新商品のアイデアがあったらおもしろい。また、何かを感じ、思いついたときに「今やる」ことが大切である。何気ない会話の中の「だったら良いなあ・・・」を、その場の世間話で終わらせず、それを「今」やるのが大事であり、自分で行動を起こすことが大切である。地球を救うために 6 歳ができる事、60 歳のお年寄りができる事、それぞれの年齢が、それぞれできることを考えなければいけない時に来ている事を訴えた。

子どもに企画をさせること、子どもにカメラ・取材のペンを持たせること、子どもにばかり任せるのではなく大人も一緒に考える、という謙虚な姿勢を持つことで子どものモチベーションも上がるのではないかと提言した。

事例発表

木村真樹氏 (コミュニティー・ユース・バンク momo 代表理事)



コミュニティー・ユース・バンク momo について (地域とつながる)

木村氏自身が運営するコミュニティー・ユース・バンク momo の取り組みから「つながる」ことの重要性と、「持続可能な社会」がどのようにして保持していけるのかが解説された。今求められているのは、「グローバル化でなくローカル化」であり、「地域があってこそ」と述べ、一般的な銀行のように出資、融資をするのではなく、お金を通して出資者と融資先が「つながる」ことの事例が挙げられた。また、お金の流れの話として銀行で「貸出率 > 預金率」となっているのは東京だけであり、これは地方のお金が東京に流れていることを示していると説明があった。このような事から「持続可能な社会 = 持続可能な小地域の集合体」と定義するならば、そのカギを握るのは以下の2点だと強調した。

- ・「ユース」(小地域の未来を担う若者)
- ・「バンク」(お金の地産地消)

つながりあった結果

コミュニティー・ユース・バンク momo の内容として NPO 等で地域貢献する方、地域や将来の為になる出資がしたい市民、農業経営など地元で事業を行っている方等が互いにつながり合う為の金融システムについて解説した。融資先とのつながりの具体的事例として、以下の取り組みが挙げられた。

1) 岐阜県郡上市での田舎暮らし体験を運営している団体への融資先訪問ツアー、ブラザー工業の協力のもと東海若手起業塾における経営戦略会議の開催、2) マイクロ水力発電によるエネルギー自給モデル構築事業への融資先訪問ツアー、カフェ形式での取り組み紹介(momo cafe)、3) 街頭キャンペーンを行う他企業と連携し、資金調達活動についてのスタッフ募集合同説明会、講座の共催、研修の実施。

また、丁寧な情報発信や呼びかけにより、出資者・運営事務局・融資先などがつながった結果、起きたこととして、以下のことが紹介された。

- ・「電話機ください」の呼びかけに複数名が名乗り出る。

- ・振込用紙「スタッフ募合同説明会」「講座の共催」「研修の実施」に寄付欄を設けて情報会員の更新をお願いしたところ、複数名から寄付をいただく。
 - ・今年度の総会における議決権の行使率は93%。
 - ・「融資先のリフォーム計画書を作ってるよ!」と、融資先を資金以外でもバックアップ。
 - ・「融資先の返済利息分を寄付したいんだけど」との申し出。
- このように実際に寄せられた声から、お金だけでなく環境教育においても、自分からこういうことをやってみたいと思う、自主的な「つながり」を生み出すことの重要性を説いた。

コーディネーター(新海氏)と木村氏のセッション

コーディネーター:

- ・教育現場(学校)とつながることを考えた時にどんなことができるか?
- ・子どもに伝えたいことは?

木村氏:

日本では2005年を金融教育元年と位置づけ、貯蓄から投資へという流れがある中で、いかにリスクを回避するかという教育が多くなった。豊かになった今問われていることは、お金を社会の中でいかに活かしていくかということである。お金の循環が見えない世の中になっているからこそ、問題が起きてくる。なぜmomoに300人以上の出資者がいるかというと、自分のお金が活かされていることを実感でき、目で見ることにより「つながり」を感じることができるからである。

これがまさに相互に実りのある金融教育になっている。

近くの参加者同士、事例に対する意見交換

広田氏、木村氏の事例発表を聞き、近くの参加者同士、事例に対する意見交換を行った。

参加者からパネリストへの質問



質問:環境教育に対する意識が高まっている。「自然発火」「あと5年が勝負」という言葉がすごく残っている。あと5年で、どうなるのか?学校、企業にして欲しいことは何か?

回答:自然界の変動を“蓮の葉クイズ”で例えて説明した。蓮の葉は1日で倍大きくなり、30日目で池の表面を全て覆う。池を半分覆ったのは、いつかという、答えは29日目であり、つまり加速度的に自然環境は変化し、問題が深刻化する。そうした問題解決について国際会議で決議されるために、世論が高まる必要性、子どもの声が重要となる。一方で自分の生活を、自然を破壊するシステムから独立させることをまずは始めてみる、自立するための根を張り、横につなげていくことが必要である。(広田氏)

質問:金融教育と環境教育の結びつきを教えてください。

回答:ここに講師としてよばれた理由は、金融教育の大切さを伝えることではなく、コミュニティー・ユース・バンク momo での活動の中での「つながり」をつくること、つながった結果に関する経験について紹介することで、皆さんが環境教育を深めるために役立てていただけることがあるのではないかとという視点で話をした。また、環境と金融は密接につながっていること、投資の結果がどれだけ環境破壊に結びついているのかを考えると、金融(お金)はいわば血液であり、世の中の問題を助長させるのも、改善するのもお金が関わっているということが言える。(木村氏)

コーディネーター:

見えていないもの、見させていないものをいかに見せていくかということが、環境教育につながっているのだと思う。そのあたりを今回の研修の中でも議論していけたらよい。

事例発表

花木峰生氏 (ブラザー工業株式会社 CSR・ブランド戦略推進部

地球環境・社会コミュニケーショングループ チームマネージャー)



ブラザー工業における環境活動・環境教育 (市民・行政とつながる)

ブラザー工業における環境活動概要・環境教育について解説された。環境活動として5R

(refuse, reduce, reuse, reform, recycle)によるCO₂排出削減、太陽光発電施設設置、屋上緑化、廃棄物削減(リサイクル率 99.7%)、エコプロダクツ展覧会が挙げられ、環境社会貢献活動としてブラザーエコポイント活動、社員のエコ活動、ブラザーコミュニケーションスペース(BCS)での環境教育、展示会でのエコ宣言、郡上市の白鳥のスキー場での企業の森活動が挙げられた。

環境教育としては、地域の小中学校、高校、大学、社会人対象に5R 学習や親子モノ作り教室、会社トップと生徒がエコに関して対談するエコトークセッションなどの事例が紹介された。

環境活動・環境教育に対する課題

これら活動を通じた課題として、環境教育面では主に教材力不足、講師のスキル、見学ルート of 安全・充実化、社内における部門を横断しての連携が、対応面では学校との接点の少なさ、他業種との連携が少ないことや時間の兼ね合いが挙げられた。

コーディネーター(新海氏)と花木氏のセッション

コーディネーター:

企業は社会的にも環境への取り組みが求められている中で、実は環境学習の拠点であることがわかった。ブラザー工業のように、企業の持っている技術やノウハウを、地域に還元していこうという流れがあるので、学校の中だけで環境学習をしようというのではなく、企業と連携できる可能性があることがわかった。

子どもが地域の大人と接する機会が少ないので、子どもの声を聞きながら、教材やプログラム開発することはとてもいいことだと思うが、実際に学校の先生と接する中でどういう思いが生まれているのか。

花木氏:

学校の先生とは、すべておまかせという形ではなく、協力してマネジメントしていける体制を望んでいる。また、子どもの意見や感想から学ぶ事も多いので、もっと接点を増やし、子どもの目線での考え方も取り入れて行きたい。

コーディネーター:

子どもたちにとっても、地域社会の大人と接する機会を持てることは大事だと思う。研修の中でそういった企画が出てくると良い。

事例発表

伊藤隆氏（愛知県 環境部環境活動推進課 課長）



過去に携わった産業公害防止の業務から現在の環境活動推進課に移り変わる中で、「産業公害と人への健康被害」「生活が豊かになった反面に起こる、都市型公害やごみ問題等」「地球環境問題(温暖化、生物多様性)」についての認識や、環境教育の必要性や価値観について解説された。また、来年度開催される COP10をキーワードとして持続可能性、循環、共生・多様性と「地球の命をつないでいこう」「みんな違ってみんないい」が紹介された。

愛知県が取組む環境教育（地域とつながる）

愛知県と地域がつながる事例として愛知万博や、産学協働の足がかりとなる地球市民村、自然学校(日本環境教育フォーラム)が紹介された。また、現在取組む環境教育として、

環境副読本の作成

あいち環境絵本大賞事業（絵本の公募、応募絵本の貸出、読み聞かせ）

もりの学舎(公募による 30 名強のインタープリターを養成し、小学生から成人・親子が共に体験できる自然体験学習の場を提供している)

やるキッズあいち劇場

環境学習ネットワークの構築(環境学習施設をつなげる愛知県環境学習施設等連絡協議会)

県職員のための環境教育講座(講師:INAX)

が挙げられた。「環境と 連携」として、地域振興、産業、県民生活、農林水産、教育、防災、建設、環境福祉など行政の各分野と連携の重要性を解説した。

コーディネーター(新海氏)と伊藤氏のセッション

コーディネーター:

県には市町村とは違う形で、行政内部をつなぐ、外部とつなぐという役割があると思うが、つながることに際して、難しい点は？

伊藤氏：

過去の経験を振り返ると、今の時代はつながりやすいと感じている。環境は現在多様な分野に盛り込まれる要素となっており、つながらなければ今後は展開できない。企業においては、環境の取り組みが単なる社会貢献から、本業をいかにサステイナブルにするかといった方向にシフトすることが求められている。

近くの参加者同士、事例に対する意見交換

花木氏、伊藤氏の事例発表を聞き、近くの参加者同士、事例に対する意見交換を行った。

参加者からパネリストへの質問

質問：生物多様性についてどの様に教育したら良いか分からない。何か良いプログラム・教材は無いかな？

回答：「私たちと環境」（愛知県が作成した副読本）を読むか、もりの学舎に来ていただくなどが県としては今出来る。ゆくゆくはインタープリターの派遣などで協力したい。（伊藤氏）

質問：子どもたち対象の出前講座を行っている企業を教えてください。

回答：EPOC の出前講座パンフレットを見れば、中部電力や日本ガイシといった企業名と、連絡先、講座タイトルも書かれているので参考にさせていただける。（株）フルハシ環境総合研究所がその事務局をやっており情報を持っているので、事務局に相談しても良い。（花木氏）

最後にパネリストから一言



- ・ここから始まり、参加者間での交流を通して、情報交換・共有をし、この 3 日間で新しい取組が生まれると嬉しい。（広田氏）
- ・自分の地域は自分で担う。当事者意識が社会的活動をしている人々の共通の意識だと思う。当事者意識を育む上で響くテーマはそれぞれ。（木村氏）
- ・これから本番。情報共有・収集して欲しい。企業として連携したい。（花木氏）
- ・情報は多いけれど行動は少ない。自分の暮らしは持続可能なのか？そこに対してたくさんの情報

を入れて行動できるように講座を有効活用して欲しい。(伊藤氏)

・これから、皆さんが主役となり活動するために、ここにいる人々を活用して欲しい。(新海氏)

コーディネーター(新海氏)よりまとめ

・この時間で得られた情報、気づきを、この後の事業計画づくりに活かして欲しい。

・まだゲストに質問したいことがあると思うが、交流会の時間に深い話をしていただきたい。

・今回の研修は、各主体が集まって話ができる貴重な機会ととらえて、自身の活動に活かせるよう仲間を見つけたり、情報を持ち帰ったりして欲しい。

以上のことを胸に、参加者に今後の研修に取り組んでいただきたいとまとめた。

(4)ねらいの共有化

西田真哉氏 (トヨタ白川郷自然学校)

この研修で、参加者の皆さんに、グループを作って企画を作り上げていただくために、今自分がどんな思いでこの研修に参加しているか、どのような課題に対し何をしていきたいと考えているかを改めて自覚し、できるだけ多くの参加者と自己紹介をしながら、思いを伝えあうことで、ねらいを共有化するための時間とすることを説明した。



【ワークショップ:自己紹介】

- ・用紙(自己紹介シート)に、名前・所属区分・活動県・研修のねらいを記入する。
- ・自己紹介シートを名刺として持ち、参加者同士で自己紹介をしあう。



環境教育には、環境の中(in)で行う教育、環境のために(for)行う教育、環境について(about)学ぶ教育の3種類があることを説明した上で、交流会までに、「どんな人にどんなことをしたいか(願い)、どのような課題に対し何をしたいか」を書き加えておくことを宿題とした。

(例)

高橋 宏輔	
行政	三重県
つながり、発信、継続性を有した「テナマ-ウ」から「ツツリマ-フ」へと変換できるように環境学習を促進したい。	
環境学習を通じて「おもしろい」と思える体験をして、一生ものにしてほしい。	

中村 聡	
小学校	愛知県
学校現場で実践できる環境教育の手法、実践例をより多く学びたい。	
・身近に自然がある子どもたちに、その大切さを理解させたい。	
・今と生きる子どもたちに環境を守るという意識をどうやって伝えるのかを学びたい。	
・環境を守るということが自分たちにもできるということを体感させたい。	

(5) 名古屋市の「つなぐ」取り組み

森本章夫氏 (名古屋市 環境局 環境都市推進課 主査)

本研修での事業計画づくりや自身の活動への参考として、名古屋市の取り組みと環境教育の考え方について伝えたいと述べた。

まずは、「幅広く各世代に応じた環境学習の展開と協働する人材の育成」として、なごやエコキッズ、環境サポーター、なごやエコスクールなど名古屋市の取り組みをわかりやすくまとめた一覧表を紹介し、その後各取り組みについての詳細が説明された。



名古屋市環境局の次世代環境学習について紹介

・なごやエコキッズ

幼稚園・保育園に向けて認定制度を設け、環境にやさしい取り組み(園児に対する働きかけ、環境保全の日(毎月 8 日)における園での取り組み、家庭に対する働きかけ)を実施できるように以下の支援を行っている。

環境サポーターの派遣・・・環境学習の実施
メッセージシート(毎月 20 日頃発行)の提供
教材の作成・提供

・環境サポーター制度

- ・「なごやエコキッズ」「なごやエコスクール」で環境学習プログラムを実施する人材を、名古屋市が派遣する制度。登録制。
- ・現在環境サポーター制度には 96 名が登録しており、なごや環境塾修了生、環境カウンセラー、自然観察指導員、等の知識を持つ人で構成されている。(研修のしおり P.11 参照)
- ・サポーターの派遣を希望する保育園・幼稚園・小学校は、70 個のプログラムの中から希望のプログラムを選択し、申し込むことができる。
- ・環境サポーターについての考え方としては、これまで培った知識や経験を子どもたちに伝えたいという意思を強く持っている人たちの思いを支援する仕組みとしている。

この考え方に賛同できる方は是非ご参加いただきたいことが呼びかけられ、特に定年退職されたサポーターが多いこともあり、企業などで積まれた知恵を伝えてもらいたいと述べた。

・環境サポーターニュース

毎月 20 日頃、名古屋市が取り組む環境について、環境サポーター間の情報交換を行うことを目的として発行。

・なごやエコスクール

小中学校・高校等に向けて認定制度を設け、環境にやさしい取り組み(児童・生徒が主体のクラスでの取り組み、児童会・生徒会が主体となった学校での取り組み)を実施できるよう以下の支援を行っている。

環境情報ネット・・・インターネットを利用した情報提供

出前授業の提供・・・環境局職員、NPO や各種団体、EPOC(中部環境パートナーシップ CLUB)による体験学習等

教材の提供

・なごやユニバーサルエコユニット

13 大学 16 キャンパス参加の、大学生とのエコ協働事業。

・大学祭の実行委員会にアピールし、負担金事務取扱基準を以って「エコ企画」を支援。

・対象事業は、低炭素社会の実現 自然共生社会の実現 循環型社会の実現。

・エコユニットの活動としては、学生たちが主体となり、オリジナルの啓発用品の作成やエコイベントへの参画を行っている。

その他の環境学習として、教育委員会主催の「エコフレンドシップ事業」(小・中学校対象)について紹介された。

最後に、名古屋市の環境サポーター制度は 2050 年になっても続いてほしいと考えていること、また地域や先生をつなぐ等、「つながり力」を持った人を輩出していけるような制度・仕組みを作っていきたいと述べ、締めくくった。

(6) ゲストを交えたグループ交流会

ファシリテーター：西田真哉氏(トヨタ白川郷自然学校 校長)

アドバイザー：新海洋子氏・広田奈津子氏・木村真樹氏・花木峰生氏

・伊藤隆氏・森本章夫氏・酒井立子氏

ここからは、学ぶという受身の態勢ではなく、自分自身がつなぐ役割を担うと思い、情報交換をしてほしい、と伝え交流会を開始した。

【ワークショップ：情報交換】

「どんな人にどんなことをしたいか(願い)、どのような課題に対し何をしたいか」を書き加えた自己紹介シートを参加者同士で紹介し合い、情報交換を行った。また、アドバイザーとして研修講師にも参加してもらい、事例発表では聞くことのできなかつた様々な活動のポイントを聞き出した。

- ・5人1グループで講師を囲む、また講師のグループに入れない場合は、参加者同士でグループを作る。
- ・名刺シートに書いた「どんな人にどんなことをしたいか(願い)」を紹介し合う。(10～15分×4回)



【ワークショップ：グループ作り】

この研修でグループごとに事業企画を作り上げることが説明し、作成した企画は実現化するためのヒントとして企画集という形で持ち帰ってもらいたいと伝えた。企画集の事例として、西田氏が過去に関わったワークショップで作られた「なごさ遊び 120 選」「わさび図鑑」等の企画集が紹介された。その後、以下の通り企画を作るためのグループ作りを行った。

- ・自己紹介シートを手に、一人ひとりがコーディネーターというつもりで、一緒に企画を作り上げていけそうな相手を探す。
- ・5～6人のグループができたら椅子に座り、企画テーマを決めた。



2日目:8月27日(木)

(7) 発想の転換、プログラム体験と見せ方・伝え方

酒井立子氏(プロ・ナチュラリスト)

気持ちのいい天気なので、楽しんで参加していただきたいという言葉とともにプログラムをスタートした。



【導入プログラム:「かたち鑑定団」】

「三角、星型、ハート型…」などの「形」を、自然の中で探すというプログラム。足元を見つめてみたり(ミクロの視点)、遠くを見つめてみたり(マクロの視点)すると自然の中には様々な形があふれていることに気づくことを説明した後、各グループに「形(矢印、3、三角、ハート、ミッキー、三日月、星型、顔型)」のカードを配り、自然の中から同じ形をしたものを探すように伝えた。



自然の中でみつけた「形」をグループ毎に発表し、その形に見えるかを全員で鑑定した。参加者からは「楽しかった」「探してみると意外に見つかった」などの感想が聞かれた。

普段は自然を「形」という視点で見ることあまりないかもしれないが、実は、私たちは昔から自然の形を取り入れて江戸小紋などの模様や家紋を作ってきたこと、また象形文字を見るとわかるように漢字も自然の形がもとになっていることが紹介された。

まとめとして、自然の形を見るということから、歴史や文化のテーマでつなげていくとさらに発展したプログラムを作ることができることも付け加えた。

【プログラム:「つめあわせ」】

10個に仕切られたケースに、自然物を詰めていき、素敵な贈り物を作るプログラム。贈る相手をチームで相談しながら想定し、テーマを決め、贈り物にはタイトルをつけるよう説明した。



発表



テーマ:「ペア」、贈る相手:夫婦

内容:どんぐりとその帽子、白いものと黒いもの、食うものと食われるもの



テーマ:「静と動」、贈る相手:生き物が好きな小中学生

内容:大きめのチョウ、羽化する途中のセミの抜け殻



テーマ:「見て、聞いて、触って、嗅いで、味わって」、岡崎の夏
黄色、赤、緑、茶色、薄紫などの色を見て楽しむ、おいしくて香りの良い実、とげとげの葉など



テーマ:「きれいだね、色っぽいね」、贈る相手:男性から女性へ

内容:カラフルな色合いの花と実

酒井氏から、集められた一つひとつの自然物について解説があった。同じ場所においても詰め合わせの内容が違うことから、人によっていいと思うもの、目に留まるものが違うことがわかり、これも人間の多様性であると言える」と説明した。また、テーマを設けることで何もないうちどころでもいろいろな物を見つけることができるので、今日のプログラムのように難しいことをしなくても、自然を体験する方法をいろいろ考えることができると伝えた。

最後に、酒井氏関わっている「もりの学舎」での森のツアーや工作教室、「あいち海上の森センター」でのセルフガイドブック、「藤前干潟センター」について紹介された。こうした施設やツールを子どもの環境学習の際に上手に利用して欲しいことが説明された。また、自分たちでプログラムを作ることに挑戦してみるのも良いし、酒井氏自身も参加者と連携してできることがあるかもしれないという言葉とともに締めくくられた。

(8) 事業企画づくり

西田真哉氏(トヨタ白川郷自然学校 校長)

アドバイザー:新海洋子氏・広田奈津子氏・木村真樹氏・花木峰生氏・酒井立子氏

グループメンバーそれぞれの想いを寄せ合い、環境教育事業の企画を行った。まずは達成したい目標、そのためのねらいを定め、プログラムを含んだ事業企画をするよう、6W2Hを基に説明をした。翌朝までに企画書・チラシを作る事を目標とし、グループワーク形式で行われた。

「企画とは想いをカタチにすることであり、今からは1つの企画を創り上げるために、合意を取り、形にしていく時間である。それぞれの想いを寄せ合い、この企画は社会の動きや人々の役に立つだろうかと考えながら創りあげて欲しい。また、ゲストスタッフに質問したい場合は、グループに招いても良い。いきなり事業計画ではなく、まずは自己主張をし、想いを寄せ合いましょう」と西田氏からの説明があり、企画作りをスタートした。

企画作りは、行き詰ったり疑問が生じた場合に、随時アドバイザーにアドバイスを求めることができる体制で行った。



中間発表

事業計画を初めて6時間経過した時点で、「中間発表」として各グループの状況説明と現段階の企画案を発表した。疑問に思ったことは参加者同士質問し、足りない部分の補足や、考えの甘い部分を指摘し合い、それぞれ完成に向けた意見交換を行った。



3日目:8月28日(金)

(9)グループ発表

西田真哉氏(トヨタ白川郷自然学校 校長)

各グループから提出された事業企画書・チラシをまとめ、冊子とした事業企画集(P.32 参照)をもとに、グループ発表を行った。発表会では立案した企画を発表するとともに、それぞれ個人の環境教育に関する想いや、事業計画を通じて感じた事・学んだ事を発表することで今回の研修の振り返りを行った。



(10)現場をのぞき見て

西田真哉氏(トヨタ白川郷自然学校 校長)

参加者それぞれが今回の研修を振り返り、事業計画を行ったグループ内で共有をした。また現場に帰った際に、今回の研修をどの様に活かすのか、参加者同士どの様に繋がるのか、現場をのぞき見た総括と共に参加者へエールを送った。

【グループワーク】

- ・グループ内で振り返りをし、分かち合う。
- ・活動場所が近い人、3～5人程度(同じ県の人同士、また同じ県内の人が多い場合は、現場(小学校・行政等)が近い人)で集まり、研修中に気づいた事・学びとなった事、またそれぞれの現場でどう活かしたいか、今後の考えを共有する。



【講義・まとめ】

本研修内容について

今回の研修は2回の検討会を経て内容を練り、実施に至っており、またタイトルについても一ひねりして、「つながる」という重要なメッセージを取り込んだものとなっていることを説明し、とても丁寧に企画された事業であることを強調した。

「つながる」というキーワードについて

西田氏が阪神淡路大震災でボランティアコーディネーターを務めた時に出たフレーズ、「楽しくなければ繋がらない。楽しくなければ広がらない。でも楽しいだけでは意味が無い。」を紹介し、これは環境教育の世界でも共通していると述べた。昨日、酒井氏による自然体験活動をおこなったが、楽しいだけでは終わらず、自然や環境のメッセージを加える事や、分かち合いをする事によって、気づきを学びへと繋げるものだった。気づきが学びに繋がることで、教育・学習となることを説明した。

人間関係と自然、価値観のつながりについて

西田氏は元々、人間関係のトレーニングを専門としていたことから、そこでの経験をもとに、自分と他者、自然、自分自身との関係について解説した。「インタープリターは人と自然を繋ぐ人(自分 自然)である。また、自分自身との関わりをどうしているか(自分 自分自身)という事が、人との関わり(自分 他人)に影響を及ぼしている。そして、個人の持つ価値は、個人と社会が繋がる部分である(自分 価値)。つまり、様々な人、環境、価値観との関わり(人間関係)によって人は変化し、成長をする。環境問題への気づきは、自分を取り巻く様々なきっかけから始まることから、環境教育とは価値教育とも言え、様々な教科を横断し、様々な繋がりが大切とされる」ことを説明した。



最後に

今回の研修では事業企画を通じて様々な主体との「つながり」を学んだ。また、事業企画を通じ、合意形成・問題解決のプロセスを踏み、「事業企画集」が成果物として完成した。今回の研修の全てが非常に大切なプロセスであり、そこで学んだ事を現場に持ち帰り、活用していただきたいと締めくくった。

(11)閉講式

【修了証書授与】

研修生代表者に中部地方環境事務所環境対策課長より修了証を授与した。



【閉講挨拶】

中部地方環境事務所 環境対策課長
伊藤正市氏

- ・ 2泊3日ご苦労様でした。
- ・ 本研修で企画された事業が一つでも実現できるとよいと願っている。
- ・ 先生方の教育の現場での環境教育の実施は難しいところもあると思うが、学校を取り巻く地域で子どもを育てること、できることから始める事が大事。
- ・ 今回のプログラムはそれらのネットワーク作りの場と考えてもらいたい。一般、NPOの方も、地域にもどってから、自分自身が主体となり、つながる・広がる・高めあうプログラムを実施してもらえるとよい。
- ・ 環境省では、環境カウンセラーの育成を実施している。子どもエコクラブでは地域のリーダーから子供たちの身近にある材料でプログラムを実施している。このような行政の環境教育支援のツール、場所も積極的に使っていただきたい。
- ・ 今回の研修で学んだ事をそれぞれの地域で活用し、つながる人材となる事を期待している。



命をいかすプロジェクト

～食への環境教育～

1. ねらい 命をいかに適切に管理・取り扱うプロジェクトを通じて、食の倫理・バウンズ・責任性を学ぶ。
命は命の食からなることにより、いかにこれらに責任を食を通して果たせる。
2. 主催 チーム GYOHAN
(事務局 西川河北高校 担当 飯田 2524-81-2123)
3. 協賛 C郵電力、JANのこけ、ブリーダー
4. 後援 豊田市、豊田市教育委員会、岡崎市、岡崎市教育委員会
5. 対象 小学生以上(小学生は保護者同伴)
6. 内容

- ① 全体計画 地域の特徴とこれにまつ関連の広げと展開する。
各プロジェクトの定員は30人とする。
- part 1 認知・実行の体験
 - part 2 操作・月1回程度・定期観覧会
 - part 3 外食・動物体験・野外調理
- ② part 2と3を核に、part 3の体験に外食・動物・part 1で作ったものを活用して調理。

② 各計画・詳細

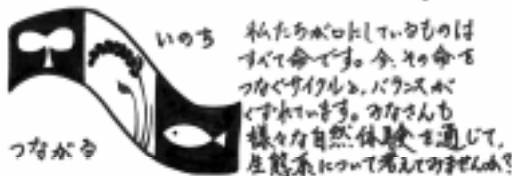
- part 1. 豊田自然観察会参加を行う。
10月10日 岡崎体験・実行の体験
再研社・協会の協力を得て、豊田市の自然観察会・環境アポイント・指導員を依頼。
- part 2. 豊田自然観察会参加を行う。
農産・協会の協力を得て体験を行う。
9月28日 岡崎入
10月18日 牛久保、動物観察会
10月20日 牛久保、動物観察会
10月14日 桐原集
10月11日 観覧会
10月9日 白樺
10月時分・お世話の自然観察会・環境アポイント・指導員を依頼。
- part 3. 外食・野外調理を行う。
環境アポイント・指導員に外食・動物・体験する。
10月10日 外食・動物・体験
part 1で作った、part 2で作ったものを活用して調理。
食・安全・調理するための 家庭料理・協会の指導員。

7. 費用

1回3人 600円
内訳
収入 500円×30人×9回 = 149,000
支出 炭焼き道具1台×1台 10,000
備 材 3,000
300円×30人×15回 13,500
調理材料 28,000
保険料 6,000
収入・支出 = 149,000 - 149,000 = 0



～食への環境教育～



参加申し込みについて

参加対象：小学生以上(小学生は保護者同伴)
参加費：1回3人 600円(保険料・材料費等含む)
定 員：30名
日 時：2016年10月17日(日) 15:00～17:00
場 所：豊田市内

〒430-0191 豊田市 下北通 飯田 311-1 西川河北高校
TEL: 052-2524-8123
FAX: 052-2524-8124
〒430-0191 豊田市 下北通 飯田 311-1 西川河北高校 事務局

お名前	参加人数	申し込み	住所
TEL: () - () - ()			

命をいかすプロジェクト part ①

間伐・炭づくり に挑戦!



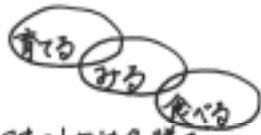
できる 育てる いかにす

森のダイエット
木を育てることで森が健康になり、余分な木をさき、別の材料に活用しましょう。
+: 2016年10月17日(日) 15:00～17:00

プロジェクト要項

日時：2016年10月17日(日) 15:00～17:00
場所：豊田自然観察会(現地集合)
持ち物：お弁当、飲み水、帽子、タオル
服装：長袖・長ズボン、運動シューズ、靴ひき、服装
申込：参加費の都合上(9:00～15:00まで)
内容：簡単な間伐体験と炭づくりを行います。

米づくりと 田んぼの生き物さがし



日本の水田は多様な生き物を育てるミニワールド。お米づくりと生き物観察会を定期的に行います。

プロジェクト事項

日時: 2018年 10月~11月 1日 ① 12月 1日~1月 1日 ②
 ③ 12月 1日~1月 1日 ④ 12月 1日~1月 1日
 場所: 豊田自然観察の森 内ヶ田んぼ(現地集合)
 持ち物: お弁当(0歳)、フーコ、軍手、タオル、生き物採取ネット(0歳向け)
 服装: 動きやすい服装
 内容: 田植えの水田での生き物体験、あわせて、田んぼと生き物の多様な生き物の採取・観察を行います。

カワヒバリガイをとって みんなで食べちゃおう



地元の大作川では特定外来種生物のカワヒバリガイが増えて困っています。みんなで採って食べてみましょう。

プロジェクト事項

日時: 10月 30日 午前7時~午後4時
 場所: 古所水辺公園(現地集合)
 持ち物: フーコ、タオル、着水足、防寒着、帽子、お弁当
 服装: 動きやすい服装(0歳向けは35℃お貸しします。)
 内容: カワヒバリガイ採取と生き物観察(生き物採集は運搬で持ち帰り禁止)を行います。現地で調理してみんなで食べましょう。

企画名称	川っていいなあ ~ リバー・フェスティバル ~		
企画名	川っていいなあ		
日時	10月20日(土) 10時~16時(雨天決行)		
内容	・事前学習 ・川遊び ・生き物探し ・水遊び ・川遊び	・川遊び ・生き物探し ・水遊び ・川遊び	・川遊び ・生き物探し ・水遊び ・川遊び
日時	10月20日(土) 10時~16時	10月20日(土) 10時~16時	10月20日(土) 10時~16時
場所	豊田自然観察の森	豊田自然観察の森	豊田自然観察の森
対象者	豊田市民 小学生 中学生 高校生 大人		
予算	1人1,500円(2,000円)	1人1,500円(2,000円)	1人1,500円(2,000円)
実施場所	豊田自然観察の森		
問い合わせ	豊田自然観察の森 環境課 2F 豊田自然観察の森 環境課 2F		
主催	豊田自然観察の森 環境課 2F 豊田自然観察の森 環境課 2F		
協賛	豊田自然観察の森 環境課 2F 豊田自然観察の森 環境課 2F		
後援	豊田自然観察の森 環境課 2F 豊田自然観察の森 環境課 2F		



暑い、寒い、川は涼しいなあ！
 水、石、魚、川は自然のお宝箱。
 すぐそばに川がある豊田は、

ぜひぜひ川遊びを
 しよう

川遊び

川遊びの楽しさ、川遊びの楽しさ、川遊びの楽しさ。

河原石探し

河原石探し、河原石探し、河原石探し。

川むくり

川むくり、川むくり、川むくり。

水遊び

水遊び、水遊び、水遊び。

魚のつかみ取り

魚のつかみ取り、魚のつかみ取り、魚のつかみ取り。

生き物探し

生き物探し、生き物探し、生き物探し。

- 日時: 10月 20日 午前7時~午後4時
- 会場: 豊田自然観察の森
- 開催: 10月20日(土) 10時~16時
- 持ち物: お弁当、タオル、着水足、防寒着、帽子、お弁当
- 内容: 川遊び、生き物探し、水遊び、川遊び
- 対象: 豊田市民、小学生、中学生、高校生、大人
- 予算: 1人1,500円(2,000円)
- 実施場所: 豊田自然観察の森
- 問い合わせ: 豊田自然観察の森 環境課 2F
- 主催: 豊田自然観察の森 環境課 2F
- 後援: 豊田自然観察の森 環境課 2F

企画書

題名: ぞり川環境美化プロジェクト
 目的: 自然環境を豊かにし、地域を美しく保つため。
 目標: ぞり川を通じて、地域の生活の向上を図る。

主催: ぞり川環境美化委員会
 共催: 川崎市
 後援: 豊田県
 協力: JAFなど

対象: 豊田県内小学生 40名
 2019年度 川崎市立小学校
 日時: 平成30年11月 9日(土) 午前10時～午後1時
 場所: 稲佐川(稲佐小学校) 稲佐川環境美化センター
 参加費: 1人1,500円
 持ち物: 帽子、長袖、長靴、タオル、水筒、袋(持ち帰り用)

内容 <環境美化活動>

- ① 稲佐川環境美化活動
 (稲佐川上流部 稲佐川の清掃)
 ② 稲佐川環境美化活動
 (稲佐川中流部 稲佐川の清掃)
 ③ 稲佐川環境美化活動
 (稲佐川下流部 稲佐川の清掃)
 ④ 稲佐川環境美化活動
 (稲佐川下流部 稲佐川の清掃)
 ⑤ 稲佐川環境美化活動
 (稲佐川下流部 稲佐川の清掃)



「川をきれいにするプロジェクト」企画概要

目的: 川をきれいにするを通じて、自然環境を豊かに保つこと。
 期日: 8月15日(土)
 場所: 逢妻川(川崎市)
 対象: 地域の小学生
 (※一部対象学年・人数 時期別あり)
 概要: 地域の小学生が環境美化活動に参加し、自然環境を豊かに保つこと。市内の小学生に身近な川についての環境美化の環境に対する意識を高めることを目指す。

- 内容:
- ① 水生生物調査
 時間: 12:00～14:30(2回実施)
 対象: 地域の小学生 5～6年
 人数: 20人
 ※整理券は12:30と14:00の2回配布
 - ② CO2バスター
 時間: 13:00～15:00(3回実施)
 対象: 地域の小学生 4～6年
 人数: 10人
 - ③ 河川周辺に関するクイズ
 対象: 小学生 1、2、3年

主催: 逢妻川をきれいにする会 (PTA連絡協議会)
 共催: 川崎市役所 川崎市観光協会
 後援: 川崎市教育委員会
 同: 逢妻川(事務局)
 代表者: 佐藤 貴裕 (稲佐小学校)
 川崎市東区町3-9-1
 0566-24-1038

ぞり川環境美化プロジェクト

① 稲佐川環境美化活動 (稲佐川上流部 稲佐川の清掃)

② 稲佐川環境美化活動 (稲佐川中流部 稲佐川の清掃)

③ 稲佐川環境美化活動 (稲佐川下流部 稲佐川の清掃)

④ 稲佐川環境美化活動 (稲佐川下流部 稲佐川の清掃)

⑤ 稲佐川環境美化活動 (稲佐川下流部 稲佐川の清掃)

日時: 平成30年11月 9日(土) 午前10時～午後1時

参加費: 1人1,500円
 (小学生100名程度に限り受け付けます。)

⑥ 稲佐川環境美化活動 (稲佐川下流部 稲佐川の清掃)

主催: ぞり川環境美化委員会
 共催: 川崎市
 後援: 豊田県
 協力: JAFなど

逢妻川
どふれあおう!!

日時: 平成32年8月08日(土) 9:00～16:00

地域の子供たちと一緒に環境美化活動を通じて、自然環境を豊かに保つこと。

① 水生生物調査
 1回目: 12:00～
 2回目: 14:30～
 対象: 小学校5～6年生
 定員: 20人
 ※整理券は12:30と14:00の2回配布

② CO2バスター
 1回目: 13:00～
 2回目: 14:00～
 3回目: 15:00～
 対象: 小学校4～6年生
 定員: 10人

③ 河川周辺に関するクイズ
 対象: 小学生 1～3年生
 ※整理券は12:30と14:00の2回配布

主催: 逢妻川をきれいにする会(PTA連絡協議会)
 共催: 川崎市 川崎市観光協会
 後援: 川崎市教育委員会

募集 志摩市環境マスタースタッフ募集
 「志摩のいいことだけ隊」
 目的 「志摩の環境を好きになること」
 目標 志摩の自然と観光、環境の魅力を伝える。
 主催 志摩市、志摩市環境ポスター実行委員会
 会場 志摩市観光案内、遊覧グループ、志摩市商工観光課
 対象 志摩市民 (20名)
 内容 第1回 2月(金) 志摩小遊覧亭、真珠殻と付付 (午前9時)
 参加費 1500円 (昼食代)
 第2回 2月(土) 自然観察会(磯)、ウミノシロ観察 (午前9時)
 参加費 1500円
 第3回 10月(土) 志摩の3つのポイント見学 (午前9時)
 参加費 3000円 (海ぶくろの貸借代)
 第4回 1月(水) 上下水道見学、環境衛生実験場見学
 真珠の作りだし (午前9時)
 参加費 1500円
 今第 (1500円) ウミノシロ代 500円
 海ぶくろ代(2枚) 500円
 志摩の3つのポイント入場料 500円
 + 入場料 500円
 真珠 500円
 昼食代 500円
 参加費 1500円
 ・参加に用いた費用 参加料
 ・12月1日以前に、志摩市マスタースタッフに申請した参加費
 その他 ・全4回参加した方には、志摩市長より、志摩市環境ポスター制作
 賞状が授けられます。
 ・終了証を交付後、1ヶ月間場を免費し、志摩市(関係の
 機関)として、協会の運営に努めることとなります。
 ・2~3月の会場は、志摩市民以外の方も対象となり、志摩市観光
 になります。



志摩市環境マスタースタッフ募集(1500円)

第1回(2月) 2月1日(金) 9:00-11:00 志摩小遊覧亭、真珠殻と付付 (午前9時) 参加費 1500円 (昼食代)

第2回(2月) 2月2日(土) 9:00-11:00 自然観察会(磯)、ウミノシロ観察 (午前9時) 参加費 1500円

第3回(10月) 10月1日(土) 9:00-11:00 志摩の3つのポイント見学 (午前9時) 参加費 3000円 (海ぶくろの貸借代)

第4回(1月) 1月1日(水) 9:00-11:00 上下水道見学、環境衛生実験場見学 真珠の作りだし (午前9時) 参加費 1500円

今第 (1500円) ウミノシロ代 500円
 海ぶくろ代(2枚) 500円
 志摩の3つのポイント入場料 500円
 + 入場料 500円
 真珠 500円
 昼食代 500円
 参加費 1500円

・参加に用いた費用 参加料
 ・12月1日以前に、志摩市マスタースタッフに申請した参加費

その他 ・全4回参加した方には、志摩市長より、志摩市環境ポスター制作賞状が授けられます。
 ・終了証を交付後、1ヶ月間場を免費し、志摩市(関係の機関)として、協会の運営に努めることとなります。
 ・2~3月の会場は、志摩市民以外の方も対象となり、志摩市観光になります。

問い合わせ先 志摩市環境ポスター実行委員会
 〒475-0001 志摩市 志摩市環境ポスター実行委員会
 TEL: 0570-22-1111 FAX: 0570-22-1111
 E-mail: shima@shima-city.jp
 志摩市環境ポスター実行委員会

5. アンケート

調査の目的:研修の開催、また研修内容に対するご意見・感想の把握

調査実施日:2009年8月29日(研修最終日)

調査人数:37人

回答者数(回収率):37人(100%)

(1)参加者の属性

1. 区分

区分		件数
一般	行政	8
	公益法人	2
	学生	2
	企業	1
	その他(一般)	7
教員	小学校	7
	高等学校	4
	中学校	4
	その他(教員)	2
総計		37

1. 区分

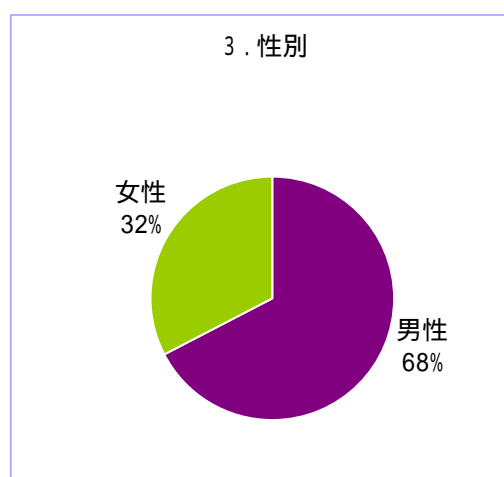
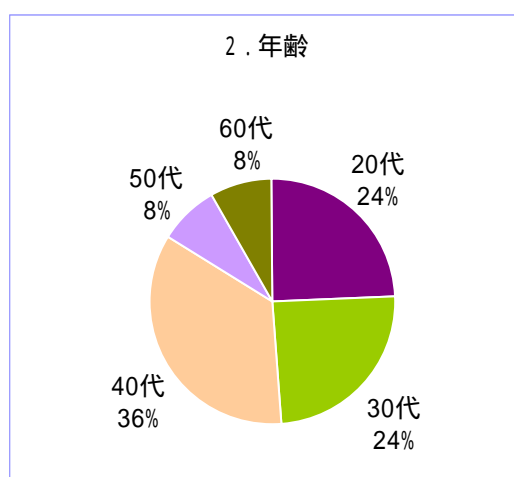
一般が20名、教員が17名となった。

2. 年齢

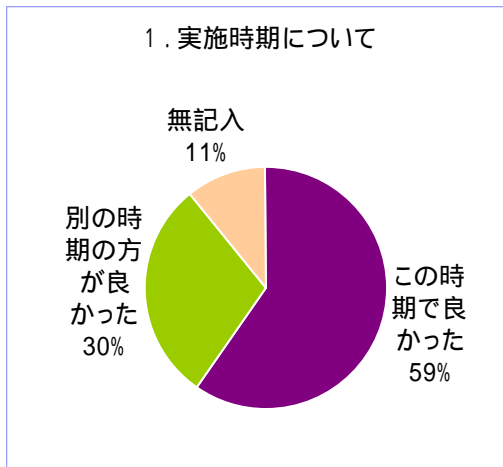
40代が一番多く36%であり、続いて20代・30代が、それぞれ24%であった。

3. 性別

男性が68%、女性が32%であった。



(2) 研修概要について



1. 実施時期について

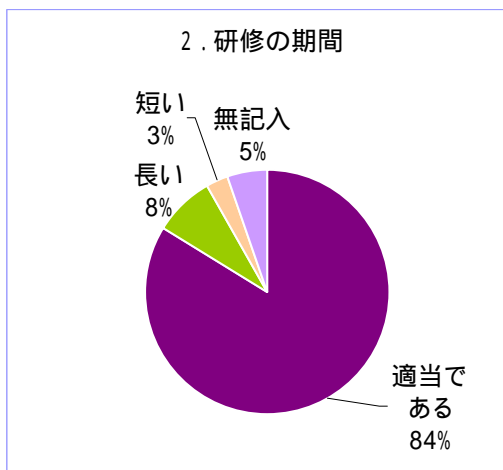
【一般】

・土日をふくめて欲しい

【教員】

・2 学期が始まっているので、もう少し早く行ってほしい。(2 件)

・夏休み前半にして欲しい。(6 件)



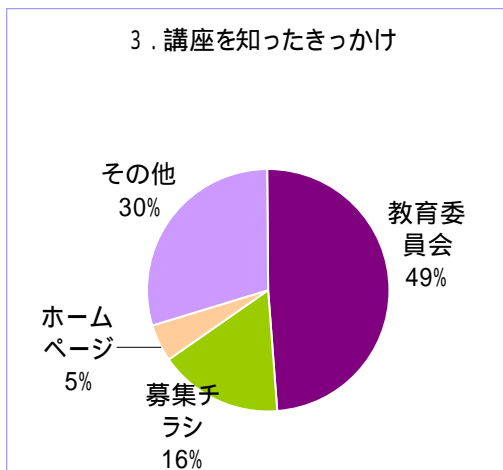
2. 研修の期間

【長いと回答】

・一泊二日(3 件)

【短いと回答】

・もっと実践力をつけるために、情報交換の時間が欲しい。



3. 講座を知ったきっかけ

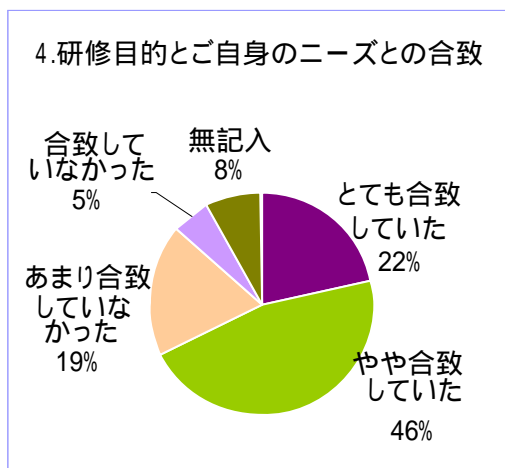
【その他の回答】

・職場・所属団体・友人・講師・フルハシ環境総合研究所からの紹介。(各 1 件)

・他の研修会の資料に案内が入っていた。

(3) 研修内容について

4 - 1. 研修の目的・内容は、ご自身の研修に対するニーズと合っていましたか。



4 - 2. 今後行って欲しい研修テーマ、内容について

【合致していた】

・地域に根ざした活動を支える人材を、育てる人を育てる研修

・今回の発展上にあるもの(例えばリスクマネジメント)

・行政、法人、行政との実践的な連携手段の方法

・体験学習を通じた環境教育(活動を重点的に)

【合致していなかった】

・プログラム作成

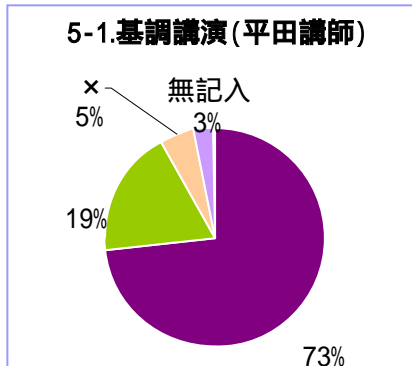
・具体例、失敗例を知りたい

・学校現場で役立つ環境教育事例や進め方のスキル

・現場の悩みを解消する手立てが知りたい

5. 講義等についての評価

5-1. 基調講演(平田講師)



【 】

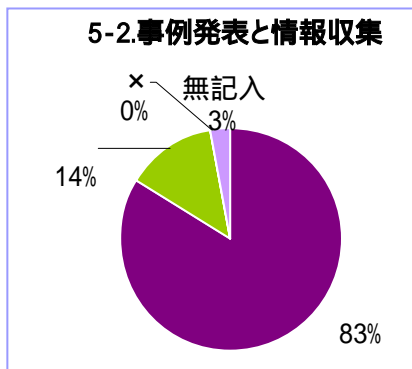
・「つなげる」心構えをつくるのに役立った。

・興味のある内容だったので、もっと時間がほしかった。(8件)

【×】

・時間短く、環境との関係がよく分からない。

5-2. 事例発表と情報収集



【 】

・環境教育を外部でする際のヒントを得る事ができた。

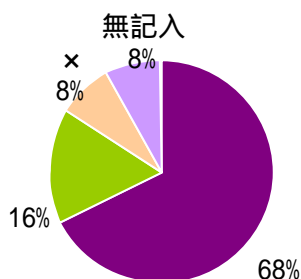
・沢山の方面からの意見や話が聞けてよかったです。

【 】

・情報量が多いわりに時間が短すぎると思う。

・それぞれの事をどう繋げたいのか分からなかった。

5-3.WS:ねらいの共有化



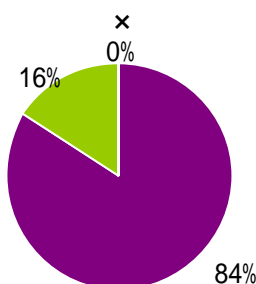
[]

- ・やるべきねらいが分かり、今後の方向づけができた。
- ・ネットワーク作りの第一段階として役立った。

[· ×]

- ・目的がよく分からなかった。
- ・専門家のアドバイスが要所でもっと入るともっとやりやすかったです。

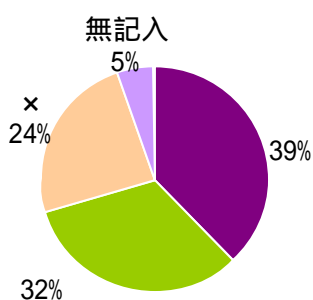
5-4.講義(森本講師)



[]

- ・先駆的に環境教育をしているので、とてもためになった。役立てられそう。

5-5.交流会



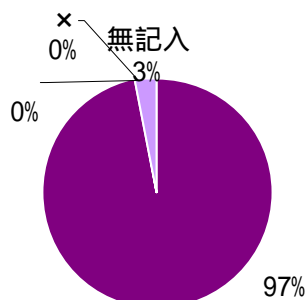
[]

- ・できる限り、多くの講師、参加者とお話しができて、良かった。互いの仕事内容を聞ける時間として有意義だった。(5件)

[×]

- ・もっとゆっくり話したかった。
- ・普通の交流会にして欲しかった。

5-6.屋外プログラム

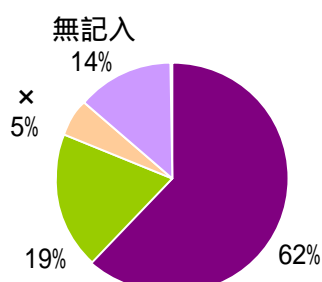


[]

- ・実践的なプログラムを体験できてよかった。自分の仕事に生かせる。(3件)

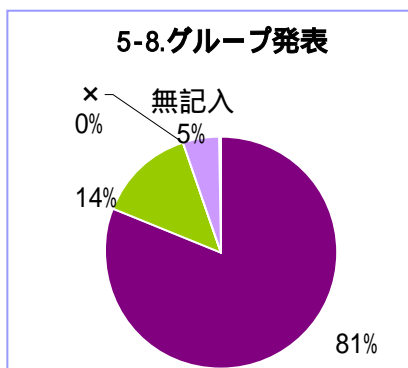
- ・人を引き付けるには、どんな態度でのぞむべきかもわかりました。

5-7.WS:事業企画作り



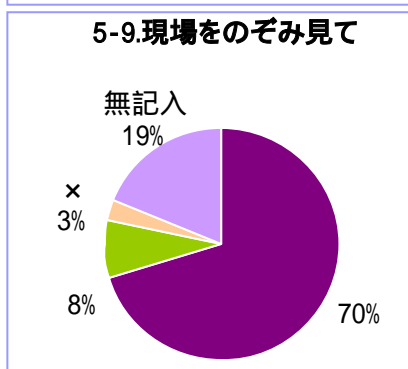
[]

- ・濃い時間を持てました。課題は難しかったけど、満足。
- ・合意形成プロセスが今後の活動の参考になった。
- ・人と企画を作り上げる作業が参考になりました。



[]

- ・チーム一人一人の感想を紹介できたのがよかった。
- ・皆さんが研修中感じていらしたことを聞いてよかった。
- ・みんなの取り組みの様子が伝わって、大変良かったです。



[]

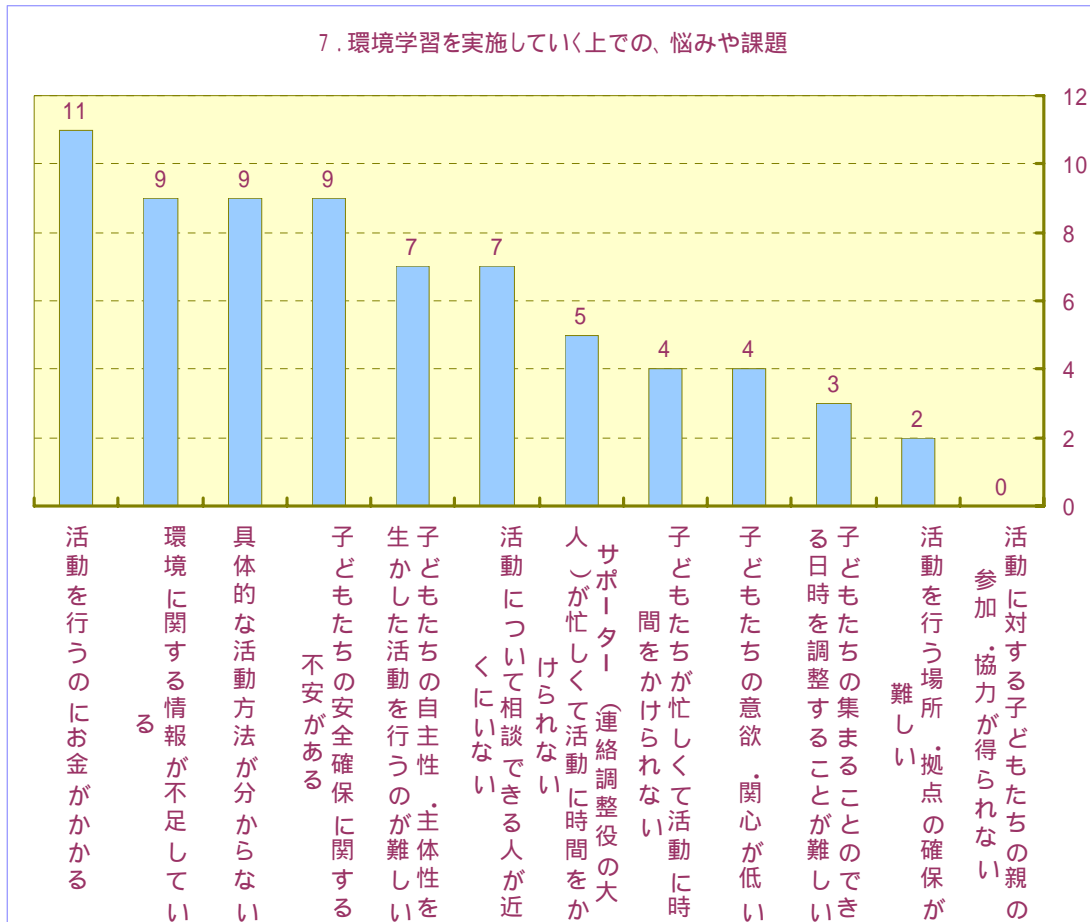
- ・いろいろなつながりを知ることができました。
- ・西田先生のお話は、何かを気づかせてくれました。

6. 講義の中で、一番印象に残っていること・役立ちそうなことをお書き下さい。

- ・企画の立案(6件)
- ・屋外プログラム(6件)
- ・事例発表。広田氏・花木氏・平田氏・森本氏・酒井氏等。(8件)
- ・参加者同士、また講師との情報交換や交流。(4件)
- ・「つなげる」ということ「つながる」ということが具体として考えられた。
- ・環境教育とは様々なアプローチがあることを知りました。
- ・多方面の方といろいろ知り合えた事、共感できた事が財産でした。
- ・環境教育を切り口にして、様々な業種の方、学校の先生方と交流できたこと。
- ・発信すること。つながることの重要性。

(4)今後の活動について

7.あなたが環境学習(体験学習)を実施している、または今後実施していく上で、何か悩みや課題はありますか。



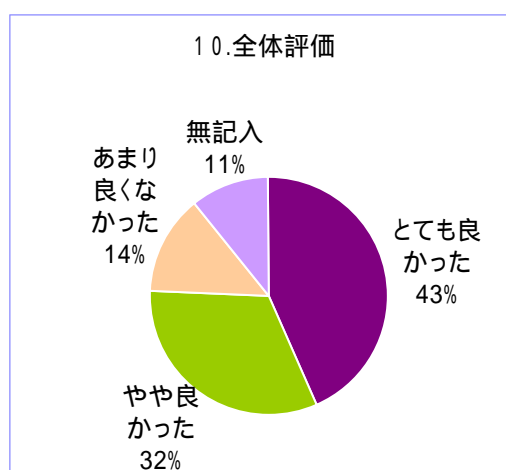
8.あなたが環境教育等を実施する上で工夫している点、または今後改善したい点は何ですか。

- ・人・団体・地域等との関わり・つながりを積極的に持ちたい。(4件)
- ・学校の先生や地域の人に、自ら飛びこんで要望を聞く。
- ・他団体と協働体制をつくって新しい企画を考えたい。
- ・現状のとりくみを環境教育の視点で上手にコーディネートしていきたい。
- ・郷土に愛着が持てるようになること。

9. 環境教育等を実施する際、主に留意している事項、または今後留意していきたい事項は なんですか。

- ・様々な立場の人との連携を深めていきたい。(4件)
- ・安全確保。(4件)
- ・地域のすばらしさを気づく活動の反面、現在加速している環境破壊のアナウンス。
- ・関わった生徒、子供たちが自分の言葉、気持ちで環境を大切に作る行動、発言ができるような育て方をしていきたいです。
- ・小さなことでも継続させていくことが大切だと思います。

10. 今回の環境教育リーダー研修の全体の評価はいかがでしたか。



・期待していた内容と違ってはいたが、異業種の方々と交じり合え、久しぶりに刺激を受けることができました。企画作りという新しい活動のスタイルも体験でき、良い時間を過ごす事ができました。

・講演、パネルディスカッション、フィールドワーク、グループワーク、交流会。構成としてたいへんバラエティに富んでいて、面白かったです。一方で、「バランス」が悪かったように思います。(グループワーク偏重！?)。

・教育という視点であるなら、教育現場の人たちが活用できることを全体プログラムとして入れてほしい。子供たちに生かすことができるものを組み込んでほしい。

・日程に余裕がなく、慌ただしい3日間だったように思う。

6. 資料

環境教育指導者育成事業 環境教育リーダー研修基礎講座 実施要項

環境教育指導者育成事業 平成 21 年度環境教育リーダー研修基礎講座 実施要項

1 趣 旨

文部科学省と環境省、地方環境事務所、都道府県教育委員会との連携・協力の下、環境教育・環境学習を推進する人材として、今後重要な役割が期待される学校教員及び地域の活動実践リーダー等を対象に、基本的知識の習得と体験学習を重視した研修を行い、指導者としての能力を養成するとともに、参加者相互の交流によりパートナーシップ構築の礎を築き、もって、学校の児童生徒や地域の人々に対する環境教育・環境学習の推進に資する。

2 主 催

環境省、文部科学省

3 実施主体

環境省 北海道地方環境事務所
環境省 東北地方環境事務所
環境省 関東地方環境事務所
環境省 中部地方環境事務所
環境省 近畿地方環境事務所
環境省 中国四国地方環境事務所
環境省 九州地方環境事務所

4 協 力

北海道教育委員会
青森県教育委員会
茨城県教育委員会
愛知県教育委員会
滋賀県教育委員会
愛媛県教育委員会
宮崎県教育委員会

5 実施内容

(1) 開催地区及び区分

全国を7ブロックに分けて実施する。

ブロック	対象都道府県	開催都道府県
北海道地区	北海道 (1)	北海道
東北地区	青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県 (6)	青森県

関東地区	茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・新潟県・山梨県・静岡県（10）	茨城県
中部地区	富山県・石川県・福井県・長野県・岐阜県・愛知県・三重県（7）	愛知県
近畿地区	滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県（6）	滋賀県
中国四国地区	鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県（9）	愛媛県
九州地区	福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県（8）	宮崎県

(2) 期 日

各ブロックの地方環境事務所において、開催期日を設定する。

(3) 期 間

平成21年7月から平成22年3月までの期間のうち、平日の2～3日間とする。

(4) 研修内容

- ① 環境教育・環境学習に関する基本的知識の習得
- ② 学校や地域における環境教育・環境学習の進め方
- ③ 体験型環境教育プログラムの作成・実施 等

(5) 参加対象者

- ① 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の校長及び教員等のうち、これから環境教育・環境学習に取り組もうと考えている者で、国立学校については所属する国立大学法人学長、公立学校については都道府県・指定都市教育委員会、私立学校については都道府県知事の推薦する者
- ② 地域で環境保全活動等に取り組んでいる者、またはこれから環境教育・環境学習に取り組もうと考えている者など比較的環境教育・環境学習に関する経験の浅い者

(6) 参加者数

各ブロックの地方環境事務所において、30～100名程度で参加者数を設定する。

(7) 参加手続

- ① 上記(5)の①に該当する者については、各都道府県教育委員会において、指定都市教育委員会、都道府県知事部局、附属学校を置く国立大学法人と連絡協議のうえ、参加者を選び、参加者名簿を開催都道府県教育委員会あてに提出する。
開催都道府県教育委員会は、ブロックにおける学校教員等の参加者をとりまとめるうえ、各ブロックの地方環境事務所の指定する日までに、当該地方環境事務所あてに提出する。
- ② 上記(5)の②に該当する者については、地方環境事務所の定める方法により、指定する日までに当該地方環境事務所あてに申し込む。

- (8) 参加者の決定
各ブロックの地方環境事務所において決定し、別途通知する。
- (9) 開催場所・宿泊等
会場、参加者の宿泊その他運営の詳細については、追って通知する。
- (10) その他
参加者に係る旅費及び宿泊費は、支給しない。

6 実施方法

- (1) 地方環境事務所は、環境省、文部科学省と連絡を取り、開催都道府県教育委員会、その他関連機関等と連携・協力し、各ブロックで開催要項、実施計画書を作成する。
- (2) 開催都道府県教育委員会は、各ブロック内の都道府県教育委員会、指定都市教育委員会、都道府県知事部局及び附属学校を置く国立大学法人に対し、開催要項に基づく開催を通知する。
- (3) 地方環境事務所は、開催要項に基づき参加者の決定を行い、通知する。
- (4) 地方環境事務所は、環境省、文部科学省と連絡を取り、開催都道府県教育委員会、その他関連機関、関係団体等と連携・協力し、本講座を実施する。
- (5) 地方環境事務所は、本講座終了後速やかに、実施報告書を作成し、環境省、文部科学省、開催都道府県教育委員会に提出する。

7 経費

- (1) 文部科学省は、本講座の実施に要する経費について、開催都道府県に対し予算の範囲内で支出する。この経費は、都道府県が行う国の会計事務として支出する経費とする。
- (2) 開催都道府県教育委員会は、本講座の実施に必要な経費の積算内訳を作成し、文部科学省に提出する。
- (3) 開催都道府県教育委員会は、本講座終了後速やかに、経費に関する報告書を文部科学省に提出する。
- (4) 環境省は、本講座の実施に要する経費について、予算の範囲内で支出する。地方環境事務所は、本講座終了後速やかに、経費に関する報告書を環境省に提出する。
- (5) 文部科学省及び環境省は、必要に応じ、本講座の実施状況及び経理処理状況について実態調査を行う。

(参考)

ホームページ：<http://www.env.go.jp/policy/info/kyouiku/index.html>
(後日、平成21年度版を掲載します。)

中部ブロック環境教育リーダー研修基礎講座 開催要項・募集チラシ

平成 21 年度 中部ブロック環境教育リーダー研修基礎講座 開催要項

開催趣旨

文部科学省と環境省は、環境教育・環境学習を推進する人材育成のために、学校の教職員、及び地域で活動されている方などを対象に研修を行います。

この研修では、実際に地域や人とのつながりを通して活躍されている方々を講師に迎え、事例を学ぶとともに、地域リーダーとして環境教育関係事業を立ち上げるために必要な人や場所、手段等について学びます。

これにより、環境教育・環境学習の指導者としてのスキルアップを図るとともに、参加者相互の交流によりパートナーシップを築き、学校の子どもたちや地域の人々に対する持続可能な社会のための教育の場づくりの推進に役立てることを目的としています。

研修の目的

- 環境教育・環境学習に関する知識の習得
- 学校や地域における環境教育・環境学習の進め方
- 講座を通じた、新しいネットワークの構築

日程・場所

日時：平成21年8月26日(水)～28日(金)(2泊3日)

会場：愛知県青年の家(愛知県岡崎市)

主催等

主催：環境省、文部科学省

実施主体：中部地方環境事務所

協力：愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市

請負団体：株式会社フルハシ環境総合研究所

参加対象

対象：富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県内に在住・在勤・在学で、環境保全活動等に取り組んでいる方、またはこれから取り組もうと考えている方

(教員の方は、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県に在住、在勤、在学の国・公・私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の校長及び教員等のうち、これから環境教育・環境学習に取り組もうと考えている者で、国立学校については所属する国立大学法人学長、公立学校については都道府県・指定都市教育委員会、私立学校については都道府県知事の推薦する者)

(注)本研修は、環境教育リーダーを育成するため、環境保全活動に関わるパートナーシップの構築を主目的に実施するものであり、個別プログラムの立案方法などのスキルを学ぶ場とはなっておりませんのでご注意ください。

定員

60名

(うち30名(愛知県外は各県3名程度)は教員で関係県教育委員会を通じて別途募集。申込み多数の場合は先着とする。)

経費・参加費

実費7,500円程度

研修に関わる経費は主催者負担とし、参加者に関わる旅費及び宿泊費等は参加者の負担とする。

研修宿泊施設の使用料・交流会費・食費と傷害保険料等の実費を予定。

参加手続き

上記の参加対象に該当する方は、各県教育委員会において、指定都市教育委員会、県知事部局、付属学校を置く国立大学法人と連絡協議会のうえ、参加者を選び、参加者名簿を開催県教育委員会あてに提出する。

開催県教育委員会はブロックにおける学校教員等の参加をとりまとめのうえ、各ブロックの地方環境事務所の指定する日までに、該当地方環境事務所あてに提出する。

参加の可否や、詳細につきましては別途通知いたします。

つながる・広がる・高めあう

環境教育の幅を広げるヒントがたっぷり!

身近な生活から地球規模まで、環境問題は21世紀最大の課題として周知されています。学校や地域・行政・企業では各々がその解決に向けて多様な取り組みを行っています。

今回の研修では、「つなぐ人」をキーワードに、次世代を担う子ども達の体験型教育を目指す学校や地域・行政・企業の方々が相互につながることで生み出される新たな活動の視点や提示方法をワークショップ形式で習得し、今後のリーダーとして必要とされる資質を高めます。



【基調講演】
中央女子大学
健康科学部
健康スポーツ科学科
教授
平田裕一氏

Guest

地域	<p>プログミーツカンパニー 代表 /COP10なごや生物多様性アドバイザー 広田奈津子氏</p> <p>企業向けのエコ提案を盛り、数回著名とともに企業へ届け、実現すれば思いどおる活動を展開。また、COP10生物多様性アドバイザーとして各主体をつなぐ、個別プロジェクトを生み出す役割を担う。</p>	<p>コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事 木村真樹氏</p> <p>地域の未来を担う若者たちによる「社会の地域化」の推進や、社会責任・貢献志向の企業やコミュニティビジネス、NPOに対するマネジメント支援を行っている。</p>			
企業	<p>ブラザー工業株式会社 CSR・ブランド戦略推進部 地球環境・社会コミュニケーショングループ 花木峰生氏</p>	行政	<p>愛知県 環境部 環境活動推進課 伊藤 隆氏</p> <p>名古屋市 環境局 環境都市推進課 森本章夫氏</p>		
ファシリテーター	<p>トヨタ自衛隊自然学校 校長 西田真哉氏</p>	コーディネーター	<p>環境省 中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー 新海洋子氏</p>	インタープリター	<p>プロ・ナチュラリスト 酒井立子氏</p>

開催日 平成21年8月26日(水)～28日(金) (2泊3日)

会場 愛知県青年の家(愛知県岡崎市) <http://aichi-yh.jp/>
〒444-0802 愛知県岡崎市美合町並松1-2 TEL.0564-51-2123

募集概要

定員	60名(うち教員30名)申し込み多数の場合は抽選とさせていただきます
対象	中部7県(高山・石川・瑞井・長野・岐阜・愛知・三重)に在住か在勤の方で、環境教育・環境学習に取り組んでいる方、または取り組もうと考えている方
宿泊・食事代	7500円(宿泊・食事・保険料・交流会費実費を含む。初日に受付でお支払い。)
申込み切	平成21年8月12日(水) 17:00必着

●主催:文部科学省・環境省 ●実施主体:環境省中部地方環境事務所
●協力:愛知県・愛知県教育委員会・名古屋市 ●運営:株式会社フルハシ環境総合研究所

日	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
8/26(水)						受付	開講式	基調講演	事例発表と情報収集	質疑応答	講義	夕食・入浴	交流会			就寝
8/27(木)		朝食	屋外プログラム	ワークショップ①	朝食			ワークショップ②				夕食・入浴	ワークショップ③			就寝
8/28(金)	朝食		ワークショップ③			閉講式										

講座内容	8/26(水)	8/27(木)	8/28(金)
《基調講演》	「今求められている人材『つなく人』」 講師：平田裕一氏		
《事例発表と情報収集》	「各主体(地域・企業・行政)の事例発表・事業企画のための情報収集」 ゲスト：木村真樹氏・広田奈津子氏・花本雄生氏・伊藤 隆氏 コーディネーター：新海洋子氏		
《ワークショップ①》	「ねらいの共有化」 ファシリテーター：西田真苗氏		
《講義》	「名古屋市の『つなく』取り組み」 ゲスト：名古屋市 森本康夫氏		
《交流会》	ゲストを交えたグループ交流会		
8/27(木)《屋外プログラム》	「発想の転換、プログラム体験と見せ方・伝え方」 インタープリター：若井立子氏		
《ワークショップ②》	事業企画 「持続可能な社会をつくるための教育とは？ 子どもたちにどんなことを伝える？ 伝えたいことをどのように伝える？」 ファシリテーター：新海洋子氏・西田真苗氏		
8/28(金)《ワークショップ③》	グループ発表 「現場をのぞき見て」 ファシリテーター：西田真苗氏		

地域・企業・行政・学校
がつながるための
ヒントを築めよう。

プロのインタープリター
から学ぼう。

あなたが考える
事業企画を考えよう。

※本研修は、学習プログラムの立案方法などのスキルを学ぶ内容に留まりません。ワークショップ手法や、リーダーシップを学びながら、パートナーシップによる環境教育活動の異なる展開を目指します。
※天候等の都合により、スケジュールが一部変更する場合があります。

お問い合わせ お申し込み

- 申込書に必要事項を記入の上、下記にメールまたはFAXにてお申し込み下さい。
- 教員の方は各県の教育委員会を通じてお申し込み下さい。
- ※受講については、申し込まれた方全員に可否をお知らせいたします。また、詳細については別途お知らせいたします。
- ※宿泊研修ですので、原則お泊まりいただきます。

申込〆切
8/12(水)
17:00必着

株式会社フルハシ環境総合研究所
〒460-0022 名古屋市中区金山1-12-14金山総合ビル7F TEL: 052-324-5351
FAX: 052-324-5352 Email: info@fuluhashi.jp

平成21年度 環境教育リーダー研修基礎講座 参加申込書 FAX.052(324)5352

氏名	[フリガナ]		所属
性別	男・女	年齢	歳 (保護に必要でその場で記入下さい)
連絡先	自宅・職場・その他() 〒 -		
	住所:	(携帯電話):	
	電話:	Eメール:	
本研修に期待することなど			

記載いただいた個人情報、本講座の運営のみに使用いたします。

・参加者・講師名簿

受講生

No	氏名	所属	県
1	永田 孝	知多自然観察会(碧南高等学校)	愛知県
2	佐野 方孝	(株)ダイセキ環境ソリューション 大府緑化推進研究会	
3	内田 京子	トヨタ自動車(株) 社会貢献推進部	
4	滝田 総子	名古屋市役所 環境局 環境都市推進課	
5	佐竹 義雄	工房ばんどり	
6	鈴木 一也	地球温暖化防止活動推進委員	
7	宮崎 直子	岡崎市環境部自然共生課	
8	川戸 健司	日本福祉大学	
9	成松 恵	株式会社フルハシ環境総合研究所(インターンシップ)	
10	野尻 真由美	刈谷市環境支援員・愛知県地球温暖化防止活動推進員	
11	中村 羊大	愛知県立豊田東高等学校	
12	石田 拓三	名古屋第一高等学校	
13	北村 まり子	豊明市立豊明小学校	
14	木下 浩	弥富市立白鳥小学校	
15	山下 美保	知多市立佐布里小学校	
16	佐藤 貴裕	刈谷市立雁が音中学校	
17	中村 聡	西尾市立八ツ面小学校	
18	中河 伸弥	小坂井町立小坂井西小学校	
19	古田 康貴	愛知県立豊川養護学校(中学部)	
20	鈴木 秀樹	名古屋市教育委員会 指導室	
21	齋藤 弥生	多治見市役所市民環境部環境課	岐阜県
22	加藤 裕章	アウトドアサポートシステム(ODSS) エコツーリズム事業部	
23	沖本 暢敬	岐阜県立飛騨高山高等学校	
24	大橋 京子	三重県環境学習情報センター	三重県
25	林 正次	(社)日本海洋少年団連盟 四日市海洋少年団	
26	高橋 宏輔	伊勢市役所 環境課	
27	渡辺 正彦		
28	松尾 英人	志摩市立 立神小学校	

29	中島 滋子	宮田村立宮田小学校	長野県
30	武井 正樹	長野市立犀陵中学校	
31	浅江 麻里子	財団法人 とやま環境財団	富山県
32	桶屋 宗伯	入善町立入善西中学校	
33	山田 友梨恵	石川県環境部 企画調整室	石川県
34	杉村 武	白山市立蝶屋小学校	
35	石田 順子	金沢市立犀生中学校	
36	宮下 裕樹	石川県教育委員会学校指導課	
37	三田村 昌和	福井県立武生工業高等学校	福井県

講師

38	平田 裕一	中京女子大学
39	西田 真哉	トヨタ白川郷自然学校
40	新海 洋子	環境省 中部環境パートナーシップオフィス
41	広田 奈津子	ブログミーツカンパニー
42	木村 真樹	コミュニティー・ユース・バンク momo
43	花木 峰生	ブラザー工業株式会社
44	伊藤 隆	愛知県 環境活動推進課
45	森本 章夫	名古屋市 環境局 環境都市推進課
46	酒井 立子	プロ・ナチュラリスト

実施主体・運営スタッフ

47	市原 信男	中部地方環境事務所
48	細川 真宏	中部地方環境事務所
49	伊藤 正市	中部地方環境事務所
50	中井 啓三	中部地方環境事務所
51	高木 丈子	中部地方環境事務所
52	丸子 義彦	愛知県教育委員会 義務教育課
53	黒崎 亜由美	株式会社フルハシ環境総合研究所
54	杉浦 泰葉	株式会社フルハシ環境総合研究所
55	岩田 茉莉工	株式会社フルハシ環境総合研究所
56	太田 千晶	株式会社フルハシ環境総合研究所

・ 検討会設置要綱

平成 21 年度 中部ブロック環境教育リーダー研修基礎講座検討会 設置要綱

(設置目的)

第 1 条 中部地区における当該事業の特性を活かした研修の実施に向けて、「環境教育指導者育成事業環境教育リーダー研修基礎講座実施要領」(以下、「要領」という。)に基づき、研修会を実施するための具体的な開催要項を作成することを目的とし、平成 21 年度中部ブロック環境教育リーダー研修基礎講座検討会(以下、「検討会」という。)を設置する。

(議事)

第 2 条 検討会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について議論を行う。

- (1) 要領に基づく研修の企画・運用に関すること。
- (2) 要領に基づく研修プログラムの作成・実施に関すること。

(構成)

第 3 条 検討会は、別表に掲げる者を検討委員とする。ただし、必要があると認められる時は、検討委員を追加・削除又は変更することができる。

(座長)

第 4 条 検討会に座長を置き、検討委員の互選によってこれを定める。

(検討会)

第 5 条 検討会は、座長が召集する。

- 2 検討会は、必要に応じて、検討委員以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。

(庶務)

第 6 条 検討会の庶務は、株式会社フルハシ環境総合研究所において行う。

(その他)

第 7 条 この要領に定めるもののほか、検討会の運営その他必要な事項はその都度協議して定める。

附則

(施行期日)

この要領は、平成 21 年 月 日から施行する。

・検討委員会開催概要

< 第1回検討会 >

日時: 2009年6月4日(木) 15:30 ~ 17:30

場所: 環境省 中部地方環境事務所 第一会議室

出席者:

座長: 平田裕一氏(中京女子大学)

検討委員: 西田真哉氏(トヨタ白川郷自然学校)

酒井立子氏(NPO 法人チームばんどり)

花木峰生氏(ブラザー工業株式会社)

新海洋子氏(環境省 中部環境パートナーシップオフィス)

森本章夫氏(名古屋市環境局)

伊藤隆氏(愛知県環境局環境活動推進課)

丸子義彦氏(愛知県教育委員会義務教育課)

実施主体: 下川元一氏・中井啓三氏・高木丈子氏(環境省 中部地方環境事務所)

事務局: 黒崎亜由美・杉浦泰葉(株式会社フルハシ環境総合研究所)

議題: 1) 環境教育リーダー研修基礎講座の企画内容の検討

2) 運営スケジュールの検討

3) 募集方法・参加募集チラシの検討

4) 関係経費の検討等

検討内容:

プログラム内容、運営スケジュールについて

- ・幅広い対象に同一の研修内容で、研修の目的でもある「子どもにとってより良い教育」に繋がるのかといった課題がある。(平田氏)
- ・地域活動にこれから取り組みたいと考える方が参加することを想定すると、まず体験できる場が必要ではないか。(丸子氏)
- ・今のプログラムは盛り込みすぎで、内容が多い。(新海氏)
- ・教員・地域の方が一緒になる場はとても貴重なので、参加者同士が繋がる事を大切にしたい。(新海氏)
- ・情報収集の時間をプログラムの冒頭の時間に集約し、酒井氏のワークショップ体験、グループワークでのプロジェクトの立案、まとめ、といった流れが良いのでは。(西田氏)
- ・パネルディスカッションではなく、講師と参加者の対話が出来た方が良い。(新海氏)
- ・これまでは環境教育プログラムを持ち帰るという明確な目的であった。今回の内容では参加者に目標設定をしてもらうこと自体、レベルが高すぎるので、目標設定できない方もいるのでは。(酒井氏)
- ・研修の目的を明確にし、何を不得帰るのかを明確にするべき。(酒井氏)
- ・募集の際には、研修の目的をきちんと伝えることが必要。(伊藤氏)
- ・「環境教育リーダー研修基礎講座」の名前はどうか? 基礎講座としているのは違和感がある。(森本氏)
- ・教員は環境について、あまり知らない。研修のレベルが高いので、教員には事前に勉強してもらうようなことが必要になるのでは。(森本氏)
- ・環境教育プログラム体験を研修の冒頭で行う事により、環境教育というものを明確にするといった手助けが必要。(森本氏)
- ・1日目は導入の時間。2日目以降はグループワークにてプロジェクトの立案に徹する。個人の

目的を明確化し、同じ様な目的を持った参加者で、グループを作ってはどうか。交流の意味も込めて、2日目の朝に酒井氏のプログラム体験を入れるとよいのでは。成果物として、参加者が作成した事業をまとめ、事例集とすることもできる。(西田氏)

- ・最終日の講評はいい。(西田氏)
- ・教員と一般参加者が講座に求める事は違う。教員は、学校現場で活用できる人材やプログラムや場所などの情報やネットワーク、一般参加者は個人のスキルアップやネットワーク作りなど様々。(新海氏)
- ・参加者にとって、研修で知り合った人材の活用、連携、または施設、教育プログラムの発掘の場としてもらいたい。そのためには、インタープリターの能力やコミュニケーションの手法を学んでもらうことも必要かもしれない。(新海氏)
- ・ワークショップを運営していく方法を先生は知りたいと思っている。学校・地域で活用したいと考えている。(酒井氏)
- ・テーマ設定もグループで身近な課題などから定められると良い。(平田氏)
- ・参加者がお互いを知った上で、どの様な場所で、頻度で...といった内容を掘り下げていくことで、現場に戻った時に活用できるものとなるのでは。(平田氏)
- ・限られた研修時間の中に、愛知県の話は必要か?(伊藤氏)
- ・地域で活動する人のネットワークは、現状では個人の繋がりとなってしまっている。この課題に対し、名古屋市では環境サポーター制度を導入。このような取り組みを活用できるという事を知る場にもしたい。また、他県でも応用して欲しい。(森本氏)
- ・本講座の終了時、参加者は環境サポーター制度の登録をし、地域での活躍の場を得たり、学校で活用できたりするようにしても良いと考えている。(森本氏)

プログラム内容、募集方法・参加募集チラシ、関係経費について

- ・このチラシでは講師の方がどんな事をやっている方が分からない。(新海氏)
- ・講座を通して参加者がどの様なことが得られるのか、メリットが見えると良い。(新海氏)
- ・経費のところで紙コップが計上されているが、紙コップではなく、是非名古屋市のリユースカップを。(新海氏)
- ・企業人が参加しても勉強になる研修だと思う。(花木氏)
- ・教員の参加する研修会では、誰でも参加できるのではなく推薦された方。しかし、これを機会に地域活動に積極的に関わっていく人材を育てたい。(丸子氏)
- ・学校の先生にとって具体的な内容、興味を引く内容、直ぐに使えるという事例があると、関心を持ってくれるのではないか。そのような視点で研修の内容を見直すと良い。(新海氏)
- ・今のチラシ案では、企業人が参加するメリットが見えない。(花木氏)
- ・チラシの「リーダー」と、「これから取組む方」という文言は相反するのでは。(花木氏)
- ・タイトルは「繋がる事でみんなまるもうけ」というイメージ。(酒井氏)
- ・講座に参加することで、埋もれてしまっている貴重なツールを見つけられる、という事が解る内容に。(酒井氏)
- ・このような内容であれば、他県や市町村の行政関係者にも参加をして欲しい。(伊藤氏)
- ・募集枠に、行政枠は良いと思う。(森本氏)
- ・教員を目指す学生も入れて欲しい。平日の3日間ではリタイアされた方が多いのでは。(新海氏)
- ・愛知県では2巡目に入っており、「基礎講座」の名前は、中部事務所でも課題となっている。チラシには小さく入れる程度で良い。講座内容をきちんと表すタイトルが大切。(高木氏)
- ・愛知県では、来年COP10が開催されるという事もあり、生物多様性、COP10という文言をチラシに入れて欲しい。(丸子氏)
- ・愛知県のパートナーシップ事業として登録しては。(伊藤氏)
- ・COP10という言葉では市民は集まらない。ピンと来ないようである。(酒井氏)
- ・キャッチコピーは何が良いか?次回までに要検討。(平田氏)

- ・「せっかくの CSR の教材を宝の持ち腐れにいませんか?」「みんなでつながって、みんなでまるもうけ」「教育現場の活用・活躍の場を見つけよう」などのキャッチコピーを考えると良い。(酒井氏)

検討内容のまとめ

- ・プログラム内容等については、次回までに事務局で再度検討し、検討会で検討する。
- ・研修会のサブタイトルは、次回までの宿題。
- ・募集方法として、企業・行政に対するアプローチ方法を検討。
- ・プログラム内容は、講師の再考、内容を削減する方向。
- ・講座の方向性としてはグループワークに重点を置く。
- ・グループワークのテーマは参加者が自由に設定。その中で自由に繋がりを考える。
- ・アウトプットとして出てきた事例は、事例集として持ち帰る事を検討。
- ・修了生は名古屋市の環境サポーター制度に登録できる事を検討。
- ・参加者間のネットワークができる研修に。
- ・実践的な活動に繋がる研修に。

< 第 2 回検討会 >

日時:2009年6月25日(木)15:30~17:30

場所:環境省 中部地方環境事務所 第一会議室(予定)

出席者:

座長:平田裕一氏(中京女子大学)

検討委員:西田真哉氏(トヨタ白川郷自然学校)

酒井立子氏(NPO 法人チームばんどり)

花木峰生氏(ブラザー工業株式会社)

新海洋子氏(環境省 中部環境パートナーシップオフィス)

森本章夫氏(名古屋市環境局)

伊藤隆氏(愛知県環境局環境活動推進課)

丸子義彦氏(愛知県教育委員会義務教育課)

実施主体:下川元一氏・中井啓三氏・高木丈子氏(環境省 中部地方環境事務所)

事務局:黒崎亜由美・杉浦泰葉(株式会社フルハシ環境総合研究所)

議題:1)環境教育リーダー研修基礎講座の企画内容の検討

2)開催案内(募集チラシ)の検討

3)募集方法の検討等

検討内容:

プログラム内容について

【西田氏よりご説明】

・平田先生の講義は、「研修の仕込みの時間になりますので、心して聞いて下さい。」とのメッセージを添える。

・「ワークショップのすすめ」は新海氏に担当していただく。今あるものを繋げて、新しいものを作っていくことを説明する。

・グループ作りは、人間KJ法を用いる。

・酒井氏のワークショップでは、「頭ほぐし、体ほぐし」を行なう。プログラム体験をあまりしない、初心者の方を対象とした優しい内容に。

・各グループで、企画書・チラシの作成を行なう。全グループを合わせ、「企画集」にする。事務局で表紙・裏表紙を作成する。

・最後のまとめではレクチャーシートを配布し、「ファシリテーターとは」について説明する。

【ご意見】

・初日の事例発表の詳細内容については、7/3(金)15:00～に、広田氏・木村氏・花木氏と打合せをし、検討する。(新海氏)

・「情報提供と事例報告」の冒頭で、新海氏から本研修の最終目標(事業計画を作成してもらうこと)のための情報収集の時間であることをしっかりと説明する。(西田氏・酒井氏)

・木村氏・広田氏・花木氏・伊藤氏の発表は、各20分。質疑応答は、関心のある講師に取材をする形式。(新海氏)

・講師に環境学習指定校が入っていないが、現場との接点を持つという事を目的に事例発表をしていただく。(西田氏・新海氏・黒崎)

・「企画集」は、実際の参加者同士での活用があったり、その参加者に関わる方と繋がりを作ったの活用があったりと、様々な方法が考えられる。使えない「企画集」ではなく、使うためにどこの誰にアプローチすべきかを知る研修にする。(西田氏・新海氏・平田氏)

・開校式後のオリエンテーションは、研修中の生活についてのオリエンテーション。(黒崎)

・講師の拘束時間は、希望としては1日目+2日目の午前中。しかし個別にご相談させていただく。(西田氏・黒崎)

・研修後のフォローとして、3年間の追跡調査を行なっている。(高木氏)

・個人情報の問題があるので名簿リストは事務局が作らない方が良い。(平田氏・西田氏)

開催案内(チラシ)について

・キャッチコピー「つながる・ひろがる・高めあう～環境教育の幅を広げるヒントがたっぷりorいっぱい～」(西田氏・森本氏)

・研修の目的部分の文章を、平田先生のメッセージに。繋がる事の大切さを伝える文章・図で表す。(新海氏・西田氏・平田氏)

・「協力」に名古屋市を追加する。(森本氏・高木氏)

・主催者側の整理もあるため、名古屋市教育委員会は入らないことはやむを得ない。(森本氏・平田氏)

・西田氏:ファシリテーター、新海氏:コーディネーターに修正。(新海氏・西田氏)

・平田氏は「講義」から「基調講演」に。(高木氏)

・「学習プログラムの立案方法などのスキルを学ぶ内容とはなっていません。」「プログラムを体験する事によって、ワークショップの手法や、リーダーシップについて学ぶ事も可能です。」(西田氏)

・講師の写真を入れるか否かはフルハシで良いように取りまとめる。(平田氏)

・チラシのスケジュール : 7/3チラシ内容の確定 検討員に配信・確認、7/8電子データの完成・入稿、7/10印刷完了 発送

・企業は、EPOCだけに留まらず、広く募集をする。各商工会議所・青年会議所(酒井氏・花木氏・新海氏)

・環境カウンセラー協会(森本氏)・中部経済産業局を通じても依頼を(花木氏)

・大学にも募集をかけること(新海氏)

その他

・研修内容では、「研修のしおり(冊子)」を配布。研修の流れに加えて、プログラムごとに目的やポイントが入っていると参加者にとっても分かりやすい。(中井氏)